

財団法人セゾン文化財団

2001年度事業報告書
2001年4月—2002年3月

THE SAISON FOUNDATION

財団法人 セゾン文化財団

2001年度 事業報告
2001年4月—2002年3月

THE SAISON FOUNDATION

ANNUAL REPORT 2001
April 2001 to March 2002

目次

ごあいさつ	3
事業概要	5
本年度の事業について	8
助成事業	11
国内助成プログラム	12
国際交流助成プログラム	28
自主製作事業・共催事業 (セゾンシアタープログラム)	38
事業日誌	43
会計報告	44
役員・評議員名簿	46

TABLE OF CONTENTS

PREFACE	4
PROGRAM OUTLINE	6
ABOUT THE PROGRAMS FOR 2001	9
GRANT PROGRAMS	11
National Grant Programs	12
International Grant Programs	28
SPONSORSHIP & CO-SPONSORSHIP PROGRAMS (Saison Theater Program)	38
REVIEW OF ACTIVITIES	43
FINANCIAL REPORT	44
BOARD OF DIRECTORS AND TRUSTEES	47

新しい世紀に入って「人間は自分が正義の具現者だと思うようになった時、もっとも危険な存在になる」と言った詩人の言葉が実感されるような紛争が毎日のように起こるようになりました。

この現象には二十世紀とはどんな世紀だったのか、モダニズムとは何だったのかという、私たちが生きている社会への根本的な疑問、問題提起が含まれていると思われます。

昨年の夏、廃校になった第一公立学校跡を使ったP. S. 1という、MOMA(ニューヨーク近代美術館)と提携関係にある美術館を訪れた時、ニューヨークに住む人をはじめこの展示に協力した芸術家たちが、いかに鋭い時代認識のなかで、自らの存在を賭けた仕事を続けているかを教えられたような気がしました。

そして日本に戻ると、我が国の多くの芸術活動は、スタイルとしての現代批評であり、時代の流行としての環境問題や平和の問題にことよせて作られているに過ぎないように私には見えて仕方ありませんでした。

少し感性の鋭い若者なら、大人たちが作っている周囲に違和感を抱き、それが引き金になって芸術創作の道に進むというのは普通に見られる過程です。しかしそこから本質的に創造的な、あくまでも私的感性に忠実であるがゆえに人に感動を与え普遍性を獲得し得る劇的空間が、作品が、そして身体表現が生まれるためには、いくつかの条件の集積が必要なのではないでしょうか。

その際、考えられる必要な要素とは、ひとつは自らの違和感を歴史的、思想的に掘み直す作業であり、それを的確に表現するための技能、技術の訓練であり、もしそれが集団的な活動であるなら、その集団の結合原理の再確認と昇華ということではないかと私は思います。

私たちのセゾン文化財団は、セゾングループと呼ばれている数多くの

企業のメセナ的な熱意、少しでも優れた芸術を発見し育てようと協力して下さった公的、私的な組織、団体、企業が存在、そして数多くの専門家、批評家、有識者、それぞれの分野における先輩の方々、そして私たち財団が支援した芸術家、集団の仕事について深い関心を持ち続けて下さった観客、批評家、ジャーナリストの方々の応援によって、1987年に設立され活動をはじめから15年の間に数多くの芸術家、団体を社会にそして世界に送り出すことが出来ました。

そうして今年、2002年の7月13日は15周年を迎えました。

私たちは精一杯仕事をして来たつもりですが、今日、混乱した社会のなかで人々が芸術文化に求めている人間回復のための仕事の総量を使う時、私たちの努力はまだ充分ではなかったような気がします。

私たちは更に国際間の相互理解のために力を出し、少なくとも敗戦前のような醜い排外的なナショナリズムの横行を許してはならないし、“良識”というヴェールを被った表現の自由の抑圧に譲歩してはならないし、そして何よりも我が国の伝統的な文化の平和的で普遍性を持った特徴を現代に蘇らせなければならないと考えています。

そうした考えを実行に移す上で、設立15周年という年は活動の質において飛躍への大きな転換点だと思います。

今まで財団を支えて下さった方々、組織、企業に感謝申し上げつつ、更なる前進に挑戦して参りたいと考えています。

2002年10月

財団法人 セゾン文化財団

理事長 堤 清二

Preface

When man begins to consider himself as an embodiment of justice, he becomes a true menace. As the new century unfolds, we find ourselves living in a world where conflicts erupt almost everyday that make the poet's words ring true.

This phenomenon that we face contains and also raises fundamental questions concerning our society - what kind of century was the twentieth century? What was the meaning of modernism?

During the summer of 2001 when I visited the PS.1 Contemporary Art Center, the alternative art space converted from an old New York public school building and an affiliate of the Museum of Modern Art (MOMA), I was amazed to see how the people of New York and the artists who cooperated with its exhibitions were devoting themselves to their work with a profound awareness of the times.

Back in Japan, I could not help feeling that much of the artistic activities in our country are simply superficial styles of contemporary critique and are being done by tapping into "fashionable" topics such as environmental or peace issues.

It is common for a young person with some sensibility who feels out of place from his or hers environment created by adults, and, triggered by that incongruousness, chooses the path of becoming an artist. Yet truly artistic and original dramatic space, work, or an expression using the body that is absolutely loyal to his or hers sensibility - and thus may move the hearts of people and gain universality - can only be achieved by integrating a number of essential conditions.

One of those conditions is to re-grasp one's incongruousness within historical and philosophical contexts; another is to develop one's skills and abilities to express that incongruousness, or, in the case of collective work, to reconfirm and sublimate a group's combining principles.

Since its establishment in 1987, the Saison Foundation has been sending out numerous artists and organizations into society thanks to the corporations of the Saison Group that have expressed enthusiasm towards arts support activities. We are also grateful to public and private organizations, groups, and corporations that offered assistance to us so as to discover and encour-

age the growth of outstanding art as much as possible, and the moral support from numerous specialists, critics, experts, and from the audience members and journalists who have shown interest in the work of the artists and organizations that have been our grants recipients.

And this year, on July 13, 2002, we celebrated our fifteenth anniversary.

Although we have strived incessantly over these years, we realize that our efforts have not been enough when we think about the entire volume of work in the arts and culture that people look upon as means to recover the virtues of humanity in such confused times.

It is our responsibility to put a great deal of effort to promote mutual understanding on an international level, and we shall never allow again the rampage of disgraceful and exclusionary nationalism that was evident in Japan until her defeat in World War II; we shall not concede to the suppression of the freedom of expression that is evolving now in this country behind a veil called "common sense"; and most of all, we must restore the peaceful and universal features of Japan's traditional culture in our present society.

I believe the fifteenth anniversary will be a crucial turning point in the history of our foundation and the quality of its work as we now try to put these ideas into practice.

Finally, I would like to thank the individuals, organizations, and corporations that have supported us over the years, and at the same time proclaim that we at the Saison Foundation will take up each challenge in order to make further progress in the years to come.

October 2002

Seiji Tsutsumi

Chairman

The Saison Foundation

助成事業

国内助成プログラム

1. 現代演劇・舞踊助成——創造環境整備

ワークショップ、会議、シンポジウム等

演劇・舞踊界の人材育成、システム改善、情報交流など芸術創造を支える環境の整備を目的とした助成プログラム。ワークショップ、会議、シンポジウム等の企画に対し、企画経費の一部を助成(50万円～300万円)し、審査のうえ会場として森下スタジオを提供する(スタジオ提供のみの場合あり)。原則として同一テーマ／企画の継続助成は3年間を限度とする。現代演劇・舞踊界が現在抱えている問題点を明らかにし、その解決方法を具体的に提案する次の事業を重視する:

- 演出家、俳優、振付家、ダンサー、制作者、技術スタッフ等の技術向上を目的とした経験者対象の人材育成プログラム
- 芸術支援を巡る議論が活発化することを目的とした政策提言や、その基礎となるべき系統だった調査・研究
- 情報交流の場の提供、情報公開を推進するシステムの整備などを目的とした会議、シンポジウムなど

アーツマネジメント留学・研修

国際的視野を持つアーツマネジャーの養成、日本でのアーツマネジメント教育の普及を目的とした海外への留学・研修に対し、100万円を上限として留学資金の一部を助成する。対象は下記のすべての条件を満たしている者とする。

- 演劇・舞踊関連の芸術経営／運営の専門家として3年以上の職歴があること
- 海外の専門教育機関への留学、あるいは劇場・芸術団体への3カ月以上の研修が内定していること
- 帰国後に留学の成果を活かし、国内の演劇・舞踊の振興に寄与する意欲と長期的展望を有すること

2. 現代演劇・舞踊助成——芸術創造

芸術創造活動Ⅰ

演劇界・舞踊界での活躍が期待される若手の芸術家／芸術団体に対し、経常費を含む年間の活動経費の一部(2001年度実績:300万円～400万円／件)を原則3年間継続助成し、希望者には稽古場として森下スタジオを提供する。対象は下記すべての条件を満たしている個人または団体とする。ただし、個人の場合は、将来団体の設立を目標としていることを前提とし、プロデュース団体の場合は中心となる芸術家(演出家、脚本家、振付家)が固定していることを条件とする。

- 申請時点で過去3回以上の公演実績がある

- 活動歴が10年未満
- 2000年度の支出規模が400万円以上である

芸術創造活動Ⅱ

国際的な活躍が期待される芸術家／芸術団体に対し、経常費を含む年間の活動経費の一部(2001年度実績:600万円／件)を原則3年間助成し、希望者には森下スタジオを提供する。対象は「芸術創造活動Ⅰ」の助成期間を終了した者に限定。

■ 特別助成【非公募】

国内における現代演劇・舞踊以外の芸術・文化分野の活動を支援。

国際交流助成プログラム

1. 知的交流

現代演劇・舞踊助成——知的交流活動

日本の現代演劇・舞踊芸術に関する会議・シンポジウムの開催、翻訳出版などを通じた日本文化の紹介、および異文化理解を目的とした個人研修に対する助成プログラム。対象者には企画経費の一部を助成(50万円～300万円)し、希望者には会議等の会場として森下スタジオを審査のうえ提供する。

翻訳出版助成【非公募】

日本の社会科学・人文科学や文学に関する文献を海外に継続的に紹介する活動および関連事業に対して資金援助する。

2. 芸術交流

現代演劇・舞踊助成——芸術交流活動Ⅰ：プロジェクト支援

演劇・舞踊芸術の国際交流を通じた創造活動の活性化、ならびに日本の舞台芸術の国際化を目的とした国内外の芸術家による共同創造作業および海外／招聘公演、あるいはその過程で行われるワークショップ等に対し、企画経費の一部を助成(100万円～500万円)する。希望者には公演稽古、ワークショップ開催の場として森下スタジオを審査のうえ提供する。対象は、公演の主体となる芸術家／芸術団体、または企画をプロデュース／マネジメントする個人／団体。ただし、海外の芸術家／芸術団体が日本で公演を行う場合は、日本側の受け入れ先が確定していることを条件とする。特に日本の現代演劇・舞踊の紹介に継続的に取り組もうとする非営利機関との共同創造事業を優先的に支援する。

現代演劇・舞踊助成——芸術交流活動Ⅱ：活動運営支援

演劇・舞踊の国際交流において今後中心的役割を果たしていくことが期待される芸術家／芸術団体への継続的支援を目的とした助成プログラム。国際的な芸術交流活動にかかわる費用全般を対象に、その一部

に対して助成金を原則として3年間にわたって交付(2001年度実績:300万円/件)。希望者には公演稽古、ワークショップ開催の場として森下スタジオを審査のうえ提供する。対象となるのは、日本に活動の拠点を置き、申請時点で国際交流関係の事業の実績を持ち、主宰者が過去に当財団の助成を受けたことがある、活動歴が10年以上の個人/団体。プロデュース団体の場合は中心となる芸術家(演出家、脚本家、振付家)が固定していることを条件とする。

芸術交流活動【非公募】

海外の非営利団体との継続的なパートナーシップに基づいた芸術創造活動、日本文化紹介事業、フェローシッププログラム等に対して資金を提供する。

■ 特別助成【非公募】

現代演劇・舞踊以外の芸術・文化分野における国際交流事業を支援。

自主製作事業・共催事業(セゾンシアタープログラム)

自主製作事業としてセミナー、ワークショップ、シンポジウムの主催、ニュースレターの刊行などを行う。

共催事業「セゾンシアタープログラム」では、現代演劇・舞踊の創造過程を支援し、かつ日本の舞台芸術界を活性化させるために非営利団体等と協力して創造性ある企画を実施。

GRANT PROGRAMS

The grant-making activities of the Saison Foundation consist of (I) national grant programs designed to activate the fields of contemporary Japanese theater and dance, and (II) international grant programs intended to promote mutual understanding between Japan and other nations through intellectual and artistic exchange projects.

I. National Grant Programs

1. Contemporary Theater and Dance—*Creative Environment Improvement Grant Program*

For Workshops, Conferences, Symposia, etc.

This program supports workshops, conferences, symposia, and other projects that are conducted to improve the infrastructure of the contemporary Japanese theater and dance community. Grants range from ¥500,000 to ¥3,000,000. Priority use of the Foundation's rehearsal facilities in Tokyo (Morishita Studio) may be awarded instead of grants depending on the nature of the project.

For the year 2001, the Foundation invited projects with the following purposes in particular:

- Training workshops for improving directing, acting, choreographing, dancing, administrating, and technical skills
- Policy proposal projects for generating discussions on art support issues, or systematic research projects with the aim to lay the groundwork for such discussions
- Conferences or symposia for promoting data and information sharing/disclosure systems

For Arts Management Studies

This category within the program assists Japanese performing arts managers to go abroad and study arts administration at universities or other educational institutions, or to undertake internships at performing arts organizations outside of Japan by awarding scholarships up to ¥1,000,000. Applicants must have (a) more than three years professional experience in the field of performing arts administration, and (b) an approval (formal or informal) from the educational institution or performing arts organization accepting him or her for a period of more than three months, and (c) a long-term plan on how to contribute toward the development of Japanese theater or dance by applying the skills and knowledge acquired through their studies or internship.

2. Contemporary Theater and Dance—*Artistic Creativity Enhancement Grant Programs*

The aim of this operating support program is to allow artists and/or companies to concentrate on their artistic work by awarding long-term grants of between three to six years and priority use of Morishita Studio for rehearsals. Grants are given to young and promising Japanese theater and dance artists/companies (Program I), and to those

among the more mature generation who are expected to widen their sphere of activity on the international platform in the near future (Program II).

Artistic Creativity Enhancement Grant Program I

This program awards grants and priority use of Morishita Studio for three consecutive years as a rule to promising Japanese theater and dance artists/companies with an active history of less than ten years and whose expenditures for the previous fiscal year were or are expected to be over ¥4,000,000. Individual artists are required to establish a company or organization in the near future. In 2001, grantees of this program were awarded ¥3,000,000 to ¥4,000,000 each.

Artistic Creativity Enhancement Grant Program II

Grants and priority use of Morishita Studio are awarded for another three years as a rule to grantees chosen among the companies who have completed the above program. In 2001, a grant of ¥6,000,000 was awarded to each grantee of this program.

■ Special Project Support Grant Program (designated fund program)

This program awards grants to cultural or artistic projects belonging to fields other than contemporary theater or dance.

Note: Applications to this program are not publicly invited.

II. International Grant Programs

1. Intellectual Exchange Programs

Contemporary Theater and Dance—Intellectual Exchange Grant Program

The Contemporary Theater and Dance - Intellectual Exchange Grant Program supports conferences, symposia, translation/publication and other related projects that improve the visibility of contemporary Japanese theater and dance within the international performing arts community. Grants ranging between ¥500,000 to ¥3,000,000 and priority use of Morishita Studio are awarded. The program also assists artists who plan to conduct travel projects to acquire a deeper understanding of other cultures.

Translation/Publication Project Grant Program (designated fund program)

Financial support is provided to translation and publication projects of Japanese social science and humanities literature and to other activities related to these areas.

Note: Applications to this program are not publicly invited.

2. Artistic Exchange Programs

Contemporary Theater and Dance—Project Support Grant Program

The aim of this program is to stimulate creative activities based on international exchange and to promote Japanese performing arts on a global scale. The program awards grants ranging between ¥1,000,000-¥5,000,000 and priority use of Morishita Studio to inter-

national collaboration projects and performances, and/or workshops held during the process of such activities. Artists/companies organizing collaboration projects or performance tours, or individuals and organizations involved in the production and/or management of the above projects are eligible to apply to this program. Artists/companies based outside of Japan who are planning to conduct a tour in Japan are required to find a Japanese host organization before submitting an application. Priority will be given to collaboration projects with not-for-profit organizations outside of Japan that are committed to working with and presenting contemporary Japanese theater and dance artists/companies.

Contemporary Theater and Dance—Process Support Grant Program

A grant program starting from 2001 in which long-term grants are awarded for three consecutive years to Japanese artists/companies who are anticipated to play an important role in the field of international exchange through contemporary theater and dance. Those eligible to apply to this program are (a) individuals or companies based in Japan with a professional career of more than ten years in the field of performing arts, (b) with a history of artistic achievements in the area of intercultural exchange activities at the time of application, and (c) have been awarded a grant from the Saison Foundation in the past. In 2001, grantees of this program were awarded ¥3,000,000 each.

Artistic Exchange Project Grant Program (designated fund program)

This designated fund program supports activities conducted by not-for-profit organizations outside of Japan with a continuous partnership with the Saison Foundation, including creative work by artists/companies, projects with the aim to familiarize Japanese culture to other nations, and fellowship programs.

Note: Applications to this program are not publicly invited.

■ Special Project Support Grant Program (designated fund program)

This program provides support to international cultural exchange projects belonging to fields other than contemporary theater or dance.

Note: Applications to this program are not publicly invited.

SPONSORSHIP AND CO-SPONSORSHIP PROGRAMS

Apart from making grants, the Saison Foundation sponsors and organizes seminars, workshops, and symposia, and publishes a quarterly newsletter.

In order to support and enhance the creative process within contemporary theater and dance and to stimulate the performing arts scene in Japan, the Saison Foundation also organizes creative projects by working with artists/companies, not-for-profit organizations, and other groups under its co-sponsorship program known as the Saison Theater Program.

本年度の事業について

片山正夫
事務局長

他の多くの民間財団がそうであるように当財団も、長く続く低金利などの影響により、極めて厳しいプログラム運営を余儀なくされている。おそらくこの状況は、当分の間、解消されることがないものと思われる。

財団にとってこのような状況は、自らの活動の指針を問い直す契機ともなる。そこでわが国の舞台芸術への支援状況に改めて目を向けてみると、当財団が本格的に活動を開始したころとは、かなり位相が異なってきていることがわかる。

殊に、絶対額として十分であるかどうかの議論を別にすれば、90年代以降、舞台芸術に対する公的支援の充実ぶりには目覚ましいものがある。その一方で、重要な役割を果たしてきた劇場やホール の閉鎖などに見られるように、民間からの支援は沈滞気味である。企業メセナは、景気ほどには落ち込んでいないとはいえ、全体としてみれば、芸術支援における官と民の格差は開く一方であるように見える。

これは実は芸術分野に限った話ではない。たとえば、わが国の助成財団のもっとも大きな対象領域である科学研究の分野では、文部科学省の科学研究費補助金（現在は日本学術振興会が所管）が、この10年間でおよそ2.5倍に増加した。その間、民間助成財団の事業費は、逆に30%程度減少している。

このため、科学分野の民間財団のあいだでは、自らのレーゾンデートルをどこに求めればよいのか、一足早く問題になってきた。かつて科研費が不足気味であったころは、民間財団からの助成金はその不足分を埋めるというだけでも一定の意味があった。また独自の視点や問題意識にもとづいたフロンティアの追究というやり方も、今よりは可能性が残されていた。しかし現在では、どの途をとっても存在感を示しづらい状況であることに変わりはない。

もちろん、融通が利いて自由度が高く、前例や既成観念に囚われない民間助成金は、今でも十分な意義を持つとする主張もある。確かに一面では事実その通りであろうが、やはり民間財団の側は、岐路に立たされているとの思いを強くしているのが現状である。

似通った状況が、文化芸術分野にも訪れつつある。当財団の活動規模も当面は縮小傾向を辿らざるを得ない。そのようななかで当財団としては、今どのような指針を確認しておくべきなのだろうか。

まず取るべき途としては、これまで当財団が特色としてきた部分をさらに深耕していくことであろう。それはたとえば、地道に継続することで長期的な成果を期待していくやり方である。すでに当財団の助成は、多くが複数年にわたるものとなっているが、その方向を一層明確にするため、本年度から現代演劇・舞踊の国際交流助成についても、継続的な活動の支援のみを対象としたプログラムを新設した。海外フェスティバルへの参加など、単発の企画にも重要なものが少なくないのは事実だが、今後の助成の中心は、長期的な取り組みにさらに比重を移していくことになるだろう。

また、もうひとつの特色である、場（＝森下スタジオ）を活用した支援も、さらに追究していくべきテーマである。すでにこれまでも森下スタジオは、

演劇・舞踊の作品制作や、ワークショップ、セミナー、シンポジウムなどの会場として活発に利用されてきたが、昨年度からさらに、外部団体との共催事業であるセゾンシアタープログラムを発足させ、この場を使ったより主体的な支援のあり方を探っている。同プログラムの一環として本年度開催され、多くの反響を呼んだコラボレーション企画『Dreamtime in Morishita Studios』や、劇団解体社によるスタジオ公演『バイバイ/未開へ』などは、森下スタジオという場の持つ可能性の豊かさに改めて気づかせてくれるものであった。

今後も、このような当財団の特徴をさらに掘り下げ、それを濃密にプログラムに反映させていくことで、アイデンティティを明確にし、当面の厳しい環境に対していきたいと考えている。

なお、本年度も引き続き、西武百貨店、西友、クレディセゾン、西洋フーズシステムズ、吉野家ディー・アンド・シー、セゾン情報システムズのセゾングループ各社より多額のご寄附をいただいた。心から謝意を表すとともに、これらのご支援があって初めて現在の当財団の活動が可能となっていることを、皆様にご報告したいと思う。

About the Programs for 2001

Masao Katayama

Director and Secretary-General

Like many other grant-making foundations in Japan, it is extremely difficult these days for the Saison Foundation to design and operate grant programs effectively when interest rates in this country have been drastically low for such a long period and seem to remain so for a while.

Yet, this is in fact an excellent opportunity for a foundation to review the principles of its activities. It is obvious that we have entered a new phase just by comparing the present circumstances of support towards the arts in this country with that of when our foundation began its grant-making activities intensely more than a decade ago.

Although the total amount may not be sufficient yet, there is no doubt that government (national and local) support towards performing arts has improved dramatically since the 1990s. On the other hand, support from the private sector has become stagnant as one can see in the closing of theaters and halls that played important roles over the years. The situation of corporate support to the arts may not be so bad in comparison to the gloomy economic situation, but it looks as if the gap between government and private arts support is widening year after year.

Actually, this phenomenon can be observed in other grant-making areas as well. The realm of scientific research, which is the largest grant-receiving sector in Japan, shows us a good example. The Ministry of Education, Culture, Sports Science and Technology's Grants-in-Aid for Scientific Research increased two and a half times within the past decade (some categories of this grant program are now being operated by the Japan Society for the Promotion of Science, a quasi-governmental foundation), while program service expenses of private foundations in this area have decreased at a rate of about thirty percent within the same ten years.

Consequently, the problem of figuring out one's *raison d'être* arose at an early stage among science-related grant-making foundations. In the days when the amount of grants from the Grants-in-Aid for Scientific Research program was still insufficient, the significance of private foundation grants was highly visible just by giving grants that covered the insufficiency. Additionally, it was still possible to make an impact through inspiring actions - such as taking the first step into unexplored grant-making frontiers - based on unique viewpoints or a keen awareness. Nowadays, it is difficult for a grant-making foundation to indicate and reassert its presence by any means at all.

Of course, some specialists say that the importance of private foundations is still evident as they are flexible and have a certain amount of freedom, and are indifferent to precedents or stereotypical ideas. Although there may be some truth in such reassuring comments, most private foundations in fact have a strong sense of being at the crossroads now.

A similar wave has arrived at the shore of culture and arts. The Saison Foundation is forced to reduce the scale of its activities for a while as we now face the issue of reaffirming our principles.

What we ought to do before anything else is to improve the elements that have been the distinctive features of our foundation. For instance, we have been giving grants in a steady and continuing

way and evaluating the results from a long-term point of view. Although many of our grants are already made on a multi-year basis, we emphasized this feature by starting a new international program in 2001 that awards grants only to long-term projects proposed by contemporary theater and dance companies. While we find many single-year projects to be equally important - such as taking part in an international performing arts festival - we believe that the core of our grant-making activities will shift towards long-term projects from now on.

Another typical feature of our foundation that we would like to enhance further is support through space, i.e., by offering or using our **Morishita Studio** in Tokyo. The studios within the building have been used actively throughout the years for creating theater and dance work, and for workshops, seminars, and symposia. In 2000, we started a more unconventional style of support in the form of a co-sponsorship program called the **Saison Theater Program** with other organizations in which Morishita Studio plays an important role. Developments that took place in 2001 as part of this new program, such as the sensational collaboration project *Dreamtime in Morishita Studios* or Gekidan Kaitaisha's performance of *Bye-Bye: The New Primitive*, helped us discover the enormous potentialities of this venue.

We at the Saison Foundation plan to cope with the hard times by exploring these unique features more extensively, and reflect the results closely to our programs and thus clarify the identity of our foundation.

Lastly, we wish to thank the following corporations of the Saison Group that made generous contributions to our foundation again in 2001: The Seibu Department Stores, Ltd.; The Seiyu, Ltd.; Credit Saison Co., Ltd.; Seiyo Food Systems Inc.; Yoshinoya D&C Co., Ltd.; and Saison Information Systems Co., Ltd. Our present work will not be possible without the financial assistance from these corporate donors.



From the showing of the Group A version of *Dreamtime* in Morishita Studios, performed by the members of TheatreWorks and Grinder-Man with DJ/musician Toru Yamanaka.
© The Saison Foundation

国内助成プログラム National Grant Programs

1. 現代演劇・舞踊助成—創造環境整備プログラム

Contemporary Theater and Dance—Creative Environment Improvement Grant Program

創造環境整備プログラムでは、現代演劇・舞踊界の創造基盤に関わる問題解決・改善に向けての活動を支援することを目的としている。2001年度は13件の事業を採択した。

今年度の助成事業の活動を見ると、演劇、舞踊とも、ワークショップ活動の充実が目立つ。

演劇では、主に俳優のスキルアップのための演劇ワークショップの場が設けられた。どのプログラムも、専門のトレーナーを招聘しレベルの高いプロ向けのワークショップを提供している。例えば、今年度から助成が開始された日本劇団協議会の演劇ワークショップでは、多くの才能ある俳優を輩出することで日本でも定評のあるフランスのジャック・ルコックのシステムを、その後継者を招いて10日間集中の少数精鋭で教授するものである。また、今年度で助成期間が終了したネットワークユニットDuoの「関西演劇ワークショップ2001」、鴻上演劇研究所/(株)サードステージの集中ワークショップ“Method Exhibition”は、英国での俳優教育システムが日本においてもひとつのスタンダードになると考え、英国留学を終えた主宰者の知識と経験を生かして実現したワークショップである。俳優や演劇人にとってこのような再教育の機会は非常に貴重である。前者のワークショップでは、現在、劇団の求めに応じて講師を招聘・派遣する「テラー・メイド・プログラム」も開始した。後者のワークショップの主宰者鴻上尚史は関連図書をいくつか出版し、実際にワークショップに参加できなくてもそのメソッドを学習できるよう尽力している。今後は、彼らのノウハウを参考に、専門的教育機関において恒常的かつ多角的に教育機会が提供されることが望まれる。

舞踊では今年度より現代舞踊の比較的新しい技術であるコンタクト・インプロビゼーションの習得・普及を目的としたコンタクト・インプロビゼーショングループ C.I. coの「2001コンタクト・インプロビゼーション・プロジェクト」への支援を開始。コンタクト・インプロビゼーションのワークショップやジャムを媒介にダンスの新たなネットワークが国内に広がっていく動きが興味深い。助成最終年度となった横浜市文化振興財団(現横浜市芸術文化振興財団)の「ロリーナ・ニクラスによる振付

家のための構力養成講座」、Kダンスオフィスによる「木佐貫邦子+néoダンスワークショップ」は、受講者には高い創作意識と積極性が要求される講座である。今後ともステップ・アップを考える振付家たちにとって有益な講座として継続されることを期待している。特に前者の講座は、振付家に問われるものは、動きの考案だけではなく社会における芸術の意味づけや分析力であるというニクラスの考えのもと、4日間集中で4-6組の振付家/ダンサーが講義、創作、批評、上演などを通して指導を受けるという非常にユニークな講座であり、他者との関わりの中で振付家の内面性を鍛錬する得難い機会となった。

また、芸術の質の向上、環境の整備のためには新たな観客の取り込み、育成もまた必須であるという考えから、アートネットワーク・ジャパンによる東京国際舞台芸術フェスティバルのコミュニケーションプログラムでは、主に学生を対象に芸術への理解を深め身近に感じるためのワークショップやレクチャー、稽古場訪問などを実施した。ここで蒔かれた種が今後どのように芽を出していくかに注目したい。

The Creative Environment Improvement Grant Program supports projects and activities intended to overcome obstacles in or to improve the infrastructure that sustains contemporary theater and dance in Japan. In 2001, thirteen organizations were awarded grants and/or priority use of Morishita Studio under this program.

One notable trend in this year's program was the significant amount and quality of both theater and dance workshops.

Most of the theater workshops were designed to improve acting skills and invited distinguished specialists who taught high degree classes for professional actors. The Association of Japanese Theatre Companies began coordinating a series of workshops from 2001 on the acting method devised by the late Jacques Lecoq, the legendary French instructor who was famous for producing outstanding actors. The series will feature successors of the original master as instructors, and for the first year Philippe Gaulier conducted an intensive workshop for a limited number of selected actors for

ten days in Tokyo. Meanwhile, a workshop organized by Network Unit Duo called “Kansai Theatre Workshop — The Showcase of English Theatre Training,” and another by Kokami/Third Stage Inc. entitled “Method Exhibition,” concluded their grant-receiving period of three years in 2001. Both workshops were strongly influenced by British theater training since the organizers of the workshops spent some time in the U.K. on separate occasions and reached the conclusion that British acting methods could be applied to Japanese theater as a standard training system. The former workshop has now begun a “tailor-made program” in which instructors are invited or dispatched to the requests of theater companies. The organizer of the latter workshop, Hiroshi Kokami, playwright and director, has published a number of books related to the acting classes in order to offer an alternative to study acting without joining the workshops. We hope that educational organizations specializing in theater training will offer constant and diverse opportunities to study acting in the future from the knowledge and skills accumulated in these workshops.

In the field of dance, Contact Improvisation Group C.I. co., an organization committed to the dissemination of contact improvisation, which is a relatively new dance technique in Japan, joined our list of grant recipients in 2001 for the first time. It is worth mentioning that a new dance network is being formed here now through contact improvisation and jam sessions. On the other hand, two dance workshops — “Choreographic Analysis Course for Choreographers by Lorrina Niclas,” organized by the Yokohama Culture Foundation (presently known as the Yokohama Arts Foundation) and K Dance Office’s “Kisanuki Kuniko + néo Dance Workshop 2001” — ended their grant-receiving period this year. These instructive workshops challenged students to demonstrate a high level of creativity and enthusiasm and set an example of educational opportunities for choreographers wishing to improve their skills. Lorrina Niclas’ workshop was especially unique and enlightening as it reflected her idea that it is essential for choreographers not only to create movements but also to mediate upon the meaning of art within the context of society and to develop analyzing skills. The four-day intensive workshop of lectures, composition, positive criti-



cism, and staging sessions was a valuable experience for the participating four to six choreographers/dancers as it gave each of them a chance to strengthen their minds and thoughts as a choreographer in connection with society.

Furthermore, the Tokyo International Festival of Performing Arts' Communication Programs coordinated by Artnetwork Japan Inc., which included a series of workshops, lectures, and rehearsal site visits intended mainly for university students, was also awarded a grant in 2001. Such audience development programs deserve attention as they bring in new people and fresh perspectives, which is crucial in the process of enhancing the quality of art and improving the supporting environment.



Site visit to a rehearsal session by Ku Na'uka Theatre Company at Morishita Studio, organized by Artnetwork Japan Inc., October 2001.



From Ray Chang's workshop performance, organized by Contact Improvisation Group C.I.co. Photo: Takashi Ito

現代演劇・舞踊助成——創造環境整備プログラム 助成対象13件/ 助成総額:15,100,000円

■ ワークショップ・教育活動

アートネットワーク・ジャパン

東京国際舞台芸術フェスティバル、コミュニケーションプログラム

2001年10月4日—12月13日

東京(日本大学江古田校舎、早稲田大学大隈講堂、東京大学駒場校舎、桜美林大学淵野辺校舎、森下スタジオ、Bunkamuraシアターコクーン、東京芸術劇場)
1,800,000円

Kダンスオフィス

2001年度 木佐貫邦子+néo ダンスワークショップ

2001年7月13日—2002年3月30日

東京(森下スタジオ)

スタジオ提供43日間

京都の暑い夏事務局

第6回京都国際ダンスワークショップフェスティバル 京都の暑い夏2001

2001年4月20日—5月13日

京都(京都芸術センター、東山青少年活動センター、関西日仏学館、Art Complex 1928)

1,500,000円

鴻上演劇研究所/(株)サードステージ

鴻上演劇研究所集中ワークショップ “Method Exhibition”

2001年6月2日—11月2日

東京(森下スタジオ)

スタジオ提供14日間

コンタクト・インプロビゼーショングループ C.I.co

2001コンタクト・インプロビゼーション・プロジェクト

2001年4月16日—2002年3月23日

東京(森下スタジオ、アスピアホール、セッションハウス、真島スタジオ)

1,500,000円 スタジオ提供13日間

日本劇団協議会

フィリップ・ゴーリエ演劇ワークショップ——ルコック・システムによる演技創造

2001年9月20日—9月30日

東京(国立オリンピック記念青少年総合センター、日本大学芸術学部中講堂)

2,000,000円

ネットワークユニットDuo

関西演劇ワークショップ2001——英国演劇トレーニングのショーケース the Third Year

2001年8月31日—2002年3月24日

京都、大阪、東京(京都芸術センター、大阪市芸術創造館、森下スタジオ)

1,500,000円 スタジオ提供3日間

横浜市文化振興財団

ロリーナ・ニクラスによる振付家のための構力

養成講座

2002年2月21日—3月3日

兵庫、神奈川(アイホール、テアトルフォンテ)
1,500,000円

■ 若手発掘・育成

STスポット横浜

STスポット・ダンスシリーズ

2001年4月1日—2002年3月31日

神奈川(STスポット)

1,000,000円 スタジオ提供10日間

セッションハウス企画室

「場」からの発信プロジェクト vol. 2——開かれたダンスのネットワークをさらに発展させていくために

2001年4月1日—2002年3月31日

東京(セッションハウス)

1,000,000円

DANCE BOX 実行委員会

DANCE BOX

2001年4月1日—2002年3月31日

大阪(TORII HALL 他)

1,000,000円

■ 情報交流

熾光群/(有)グッドフェローズ

『ラミー・プロジェクト』シンポジウム&ワークショップ

2001年4月14日—4月26日

東京、愛知、兵庫(ザ・スズナリ、愛知県立芸術劇場、ピッコロシアター)

800,000円

■ 調査・研究

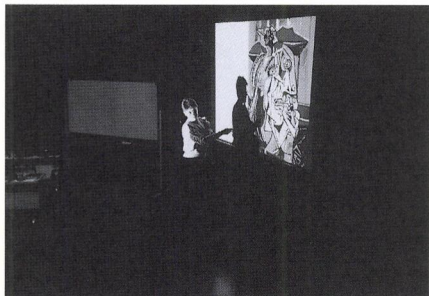
芸術文化政策研究会

芸術創造活動支援のための税制度[2年計画の最終年度]

2001年4月1日—2002年3月31日

東京/ロサンゼルス他

1,500,000円



Lorrina Niclas lecturing on the ways of looking at and analyzing visual art during her course for choreographers, coordinated by the Yokohama Culture Foundation (presently known as the Yokohama Arts Foundation). © Yokohama Arts Foundation

Contemporary Theater and Dance—Creative Environment Improvement Grant Program

13 Grantees/ Total appropriations: ¥ 15,100,000

■ **Workshops and Educational Activities**

Artnetwork Japan inc.

Tokyo International Festival of Performing Arts' Communication Programs
October 4 – December 13, 2001
Tokyo (Nihon University, Waseda University, University of Tokyo, Obirin University, Morishita Studio, Bunkamura Theater Cocoon, Tokyo Metropolitan Art Space)
¥1,800,000

Association of Japanese Theatre Companies

Jacques Lecoq System Theatre Workshop by Philippe Gaulier
September 20 – 30, 2001
Tokyo (National Olympics Memorial Youth Center, Nihon University)
¥2,000,000

Contact Improvisation Group C.I.co.

2001 Contact Improvisation Project
April 16, 2001 – March 23, 2002
Tokyo (Morishita Studio, ASPIA Hall, Session House, Majima Studio)
¥1,500,000 Studio Rental: 13 days

Hot Summer Office

Sixth International Dance Workshop Festival in Kyoto
April 20 – May 13, 2001
Kyoto (Kyoto Art Center, Higashiyama Youth Center, Franco-Japonais Institute du Kansai, Art Complex 1928)
¥1,500,000

K Dance Office

Kisanuki Kuniko + néo Dance Workshop 2001
July 13, 2001 – March 30, 2002
Tokyo (Morishita Studio)
Studio Rental: 43 days

Kokami/Third Stage Inc.

Method Exhibition
June 2 – November 2, 2001
Tokyo (Morishita Studio)
Studio Rental: 14 days

Network Unit Duo

Kansai Theatre Workshop — The Showcase of English Theatre Training — the Third Year
August 31, 2001 – March 24, 2002
Kyoto, Osaka, Tokyo (Kyoto Art Center, Osaka Art Space, Morishita Studio)
¥1,500,000 Studio Rental: 3 days

Yokohama Culture Foundation

Choreographic Analysis Course for Choreographers by Lorrina Niclas
February 21 – March 3, 2002
Hyogo, Kanagawa (AI HALL, Théâtre Fonté)
¥1,500,000

■ **Development Projects at Performing Spaces**

Dance Box Office

DANCE BOX
April 1, 2001 – March 31, 2002
Osaka (Torii Hall, etc.)
¥1,000,000

Session House Planning Office

Dance network development project
April 1, 2001 – March 31, 2002
Tokyo (Session House)
¥1,000,000

ST Spot Yokohama

ST Spot Dance Series
April 1, 2001 – March 31, 2002
Kanagawa (ST Spot Yokohama)
¥1,000,000 Studio Rental: 10 days

■ **Communication Projects**

Theater Company Rinko-gun/Good Fellows Inc.

"The Laramie Project" Symposia & Workshops
April 14 – 26, 2001
Tokyo, Aichi, Hyogo (Umegaoka Box, The Suzunari, Aichi Arts Center, Piccolo Theater)
¥800,000

■ **Research Projects**

Cultural and Arts Policies Research Group

Research and proposal for the establishment of a tax-based national funding system for the arts in Japan [Final year of a two-year project]
April 1, 2001 – March 31, 2002
Tokyo, Los Angeles, etc.
¥1,500,000

芸術団体に対し複数年にわたって運営助成を行う本プログラムでは、現代演劇・舞踊界での活躍が今後期待される若手と、次段階としてさらに国際的な活躍が期待される中堅の芸術団体の育成を目的とし、芸術創造活動IとIIの2段階（原則としてそれぞれ3年間の継続助成）で、助成金の交付および森下スタジオの提供による支援を行っている。

本年度は芸術創造活動Iの助成対象者として、舞踊のPROJECT FUKUROW（プロジェクト フクロウ）とStudy of Live works 発条ト（スタディ オブ ライブ ワークス バネト）、演劇の劇団「指輪ホテル」と演劇弁当 猫ニャーの4団体が新たに選拔され、前年度からのI、IIの継続助成をあわせると11団体への助成を行った。

PROJECT FUKUROWは1996年に設立。主宰の石川ふくろうは学生時代よりテクノロジーと芸術の融合に着目し、機械仕掛けの装置や美術を含む独創的な空間デザインと、アジアの身体を意識した舞踊とのアンバランス感覚と調和を特徴とする作品創りを行っている。2000年にはSPAC振付コンクール2000にて最優秀賞を受賞した。

Study of Live works 発条トは、1996年、白井剛（振付・ダンス）と栗津祐介（音楽）を中心に設立。ダンスを広義のライブ表現として捉え、舞台表現における「ライブ感」を探索している。2000年には第7回バニョレ国際振付賞横浜プラットフォームナショナル協議員賞及び新人部門賞を受賞した。

劇団「指輪ホテル」は1990年に設立され、94年から羊屋白玉が主宰として全作品の作、演出を務めている。これまでヌーディティの可能性とバイオレンスに関する考察をもとにした作品を発表し、また「男性の目を介在させなくても成立する女性の身体」というテーマのもとで新しいフェミニズムの実践にも取り組んでいる。また羊屋は2001年にアジア・カルチュラル・カウンスル（ACC）のフェローによりニューヨークで演劇研究を行った。

演劇弁当 猫ニャーは1994年に設立された劇団の「猫ニャー」解散後、2001年より新プロジェクトとして始動した。2000年から主宰を務めるブ

国内助成プログラム National Grant Programs

2. 現代演劇・舞踊助成—芸術創造活動プログラム Contemporary Theater and Dance—Artistic Creativity Enhancement Grant Programs

ルースカイが劇団設立時より全作品の作、演出を手掛けている。「くだらない演劇」を創ることによって「意味の意味」「無意味の意味」を真剣に考え、改名以後はより社会のリアリティのあるところで、活動の幅を広げていくことを目指している。

本年度の新規採択団体はいずれも舞踊、演劇というジャンルに収まりにくい活動や、舞台公演にとどまらない活動を行っており、今後の展開や方向性が興味深い。

継続助成が決まったもののうち、3件が本年度で継続助成最終年度を迎えた。芸術創造活動Iを終了する**MONO**については、今後はIIの段階に再度助成申請をすることが可能となる。主宰者の土田英生が劇団青年座に書き下ろした作品で2001年度の芸術祭優秀賞を受賞したのは特筆に値する。本年度で芸術創造活動IIを終了した**伊藤キム+輝く未来と劇団解体社**も精力的に活動を展開した。伊藤キムは2000年に創った海外のダンサーとのコラボレーション作品『Close the door, open your mouth』を日本で上演し、さらにカンパニーの活動として海外ツアーや新作『激しい庭』の創作・上演を行った。伊藤は上述の2作品で第1回朝日舞台芸術賞の寺山修司賞を受賞。劇団解体社は2001年度のセゾンシアタープログラムの一環として新作『バイバイ/未開へ』を森下スタジオで上演し、9月から11月の3ヶ月間にわたって同作品のワールドツアーを実施した。各助成対象者の本年度の活動概要についてはデータ編を参照されたい。

The Artistic Creativity Enhancement Grant Programs, which offer operating support to theater and dance companies on a multi-year basis in the form of grants and priority use of Morishita Studio, are divided into two levels (basically three years for each level) depending on the length of their careers. The first level, Program I, is designed to support the young generation of artists whose activities are expected to make an impact on the fields of contemporary Japanese theater or dance in the future; Program II is for the further development of signifi-

cant companies who are expected to become active within the international performing arts community.

In 2001, four companies joined the group of Program I grant recipients: dance companies **PROJECT FUKUROW** and **Study of Live works BANETO**, and the theater companies **Yubiwa Hotel** and **Engeki Bento Neko-Nya**. As a result, a total of eleven companies were awarded grants under the two programs.

Choreographer and dancer Fukurow Ishikawa, who was intrigued with the idea of fusing technology and art since his college student days, founded **PROJECT FUKUROW** in 1996. Ishikawa's interest is reflected in his work, which combines unique stage designs using mechanical devices and artwork with a style of dance that accentuates the Asian-ness of the dancers' bodies and thus creating a mixed sense of disproportion and harmony. In 2000, Ishikawa received the best new choreographer award at the Shizuoka Performing Arts Center's choreography contest.

Study of Live works BANETO was founded by choreographer/dancer Tsuyoshi Shirai and composer/musician Yusuke Awazu in 1996. The consistent theme in the works of the dance company is to pursue and explore the sense of "live-ness" in performing arts. Shirai won two awards at the Seventh Yokohama Platform of the *Rencontres choregraphiques internationales de Seine-Saint-Denis* in 2000.

Yubiwa Hotel was formed in 1990, and four years later **Shirotama Hitsujiya** became its artistic director and has written and directed each production ever since. The all-female cast company has staged works based on their interpretations on violence and on the potentiality of nudity as a form of expression. The company is also engaged in a unique kind of feminism through the theme of conceiving a woman's body that is free from the gaze of men. **Hitsujiya** was awarded a fellowship grant from the Asian Cultural Council in 2001 and observed contemporary theater activities during her stay in New York.

Engeki Bento Neko-Nya is a project that began in 2001 after **Neko-Nya**, a theater company founded in 1994, was dissolved. The playwright and director known as **Blue Sky**, who assumed the position of artistic director in 2000, has written and directed each

production since the founding of the original theater company. The theme of their work is to study "the meaning of meaning" and "the meaning of meaningless" through nonsense comedy, and after changing the name of their organization they aim to expand their work by linking it more closely to the realities of society.

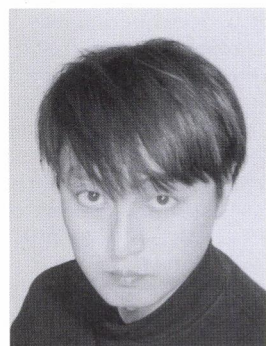
Interestingly, the above four companies have developed a more or less interdisciplinary style and also perform activities that are not limited to the stage.

Among those that have been members of this program during the past few years, three companies reached their final grant-receiving year in 2001. The theater company **MONO** completed its final year in the Program I category and is eligible to apply for another term in the Program II category. It should be noted that **Hideo Tsuchida**, **MONO's** artistic director, won the prestigious National Arts Festival Excellence Award for 2001. Furthermore, **Kim Itoh + the Glorious Future** and **Gekidan Kaitaisha** displayed a high level of artistic vitality during their final year in the Program II category. **Kim Itoh** staged a piece in Tokyo entitled *Close the door, open your mouth* which he created at the end of 2000 with two Amsterdam-based performers, and also a new production, *Screaming Garden*, in 2001. **Itoh** was awarded the **Shuji Terayama Award** of the first **Asahi Performing Arts Awards** for the above two works. As part of the **Saison Theater Program** for 2001, **Gekidan Kaitaisha** presented their new work, *Bye-Bye: The New Primitive*, at **Morishita Studio** and completed a world tour that lasted for three months, from September to November.

Details on the activities of each grantee of these programs during 2001 are listed in the following pages.



GIGANT, performed at the New National Theatre, Tokyo, September 2001. Photo: Haruhisa Yamaguchi



2001年度より
From 2001

Fukurow Ishikawa

主宰: 石川ふくろう(振付家・ダンサー)

制作: 石川直子

artistic director: Fukurow Ishikawa

(choreographer, dancer)

producer: Naoko Ishikawa

ishikawa@fukurow.com

http://www.fukurow.com

■ 継続助成対象期間

2001年度から2003年度まで

■ 2001年度の助成内容

年度: 2001年1月1日-12月31日

金額: 3,000,000円

スタジオ提供(2001年6月から2002年5月までの
期間): 22日間

■ 2001年度の主な活動

【公演活動】

6月: 『GIGANT 偽眼人』静岡春の芸術祭2001参
加公演

9月: 『GIGANT』改訂版BeSeTo演劇祭参加公
演(新国立劇場小劇場)

10月: Tokyo Contemporary Dance 2001に参
加、『HARIMAO 破理魔王』をローマ、カイロ、パリ
にて上演

12月: 高知県立美術館主催「Jーダンス最前線」
参加

2月: 第6回パークタワー・ネクストダンス・フェス
ティバルにて『DOROBO 泥棒』上演、「ランコン
トル・コレグラフィック・アンテルナショナル・ドウ
・セーヌ・サン・ドニ ヨコハマプラットフォーム」参
加

【その他】

7月: テレビ東京「たけしの誰でもピカソ」出演

■ Grant-receiving term

From 2001 to 2003

■ Details on support during fiscal year 2001

Fiscal year: January 1 – December 31, 2001

Grant: ¥3,000,000

Studio Rental: (between June 2001 till May 2002):
22 days

■ Major activities during fiscal year 2001

(Performances)

June: *Gigant* performed at the Spring Arts Festival
Shizuoka

September: Revised version of *Gigant* performed
at the BeSeTo Theater Festival at the New National
Theatre, Tokyo

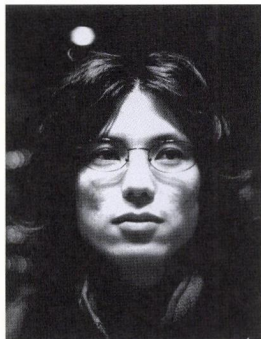
October: *Harimao* performed in Rome, Cairo, and
Paris as part of the Tokyo Contemporary Dance 2001
showcase

December: Performance at the J-Dance Front Line
festival organized by the Museum of Art, Kochi
February: *Dorobo* (Thief) performed at the Sixth Park
Tower Next Dance Festival in Tokyo; participation in
the Yokohama platform of Rencontres
choreographiques internationales de Seine-Saint-
Denis

(Other projects and events)

July: Featured in Takeshi Kitano's television program

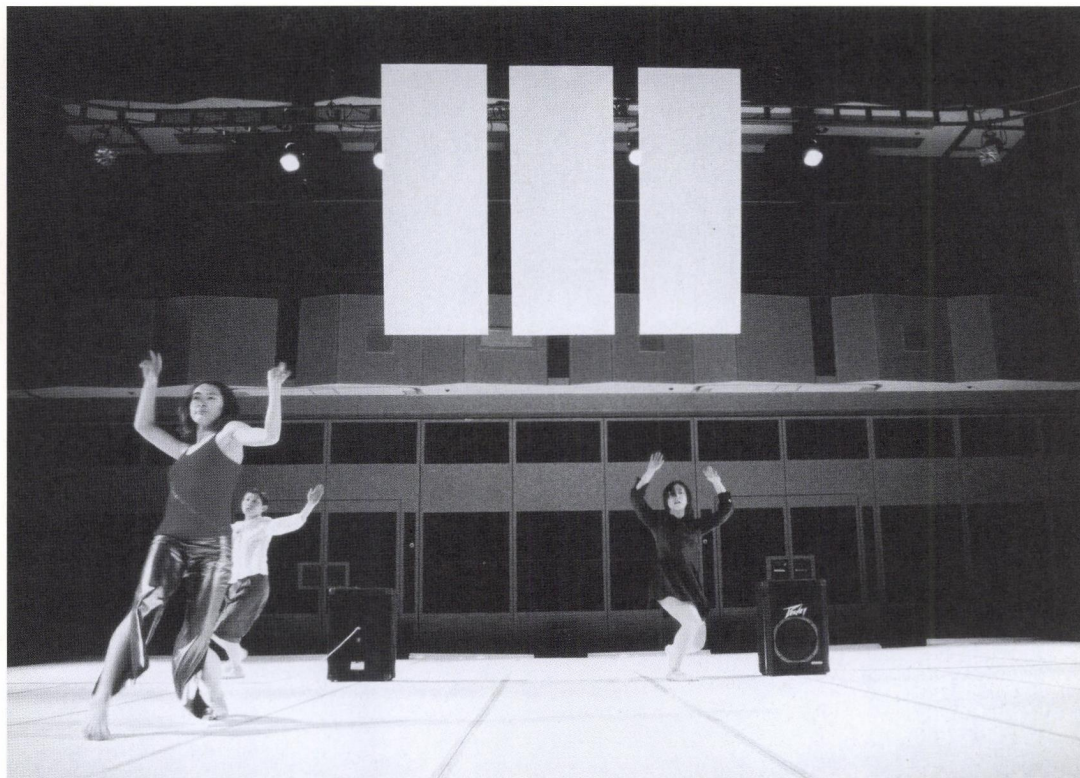
Study of Live works 発条ト[舞踊/千葉]
Study of Live works BANETO (dance/Chiba)



Tsuyoshi Shirai © baneto

主宰：白井剛(振付家・ダンサー)
 制作：根木山恒平

artistic director: Tsuyoshi Shirai
 (choreographer, dancer)
 company manager:
 Kohei Negiyama
 aaa66690@pop02.odn.ne.jp
 http://www.geocities.co.jp/
 Hollywood-Theater/8717/



A scene from their newest work, *How to enjoy him/her*. © baneto

**2001年度より
 From 2001**

■ 継続助成対象期間

2001年度から2003年度まで

■ 2001年度の助成内容

年度：2001年4月1日～2002年3月31日

金額：3,000,000円

スタジオ提供(2001年6月から2002年5月までの期間)：32日間

■ 2001年度の主な活動

【公演活動】

7月：ワルシャワ、アムステルダムダンスフェスティバルにて『タイムニットセーター』を上演

8月：『彼/彼女の楽しみ方(試作)』 art-Linkカフェ参加(東京)

10月：Tokyo Contemporary Dance 2001に参加、『タイムニットセーター』をローマ、カイロ、パリにて作品上演

11月：「レニ・バッソ×珍しいキノコ舞踊団×発条ト ソロ・アンソロジー」参加(東京・京都・福岡)

12月：高知県立美術館主催「Jーダンス最前線」にて『タイムニットセーター』を上演

1月：ニューヨークのジャパン・ソサエティーでのJapanese Contemporary Dance Showcaseに

て『タイムニットセーター』を上演

2月：『彼/彼女の楽しみ方』兵庫公演(初演)

3月：『彼/彼女の楽しみ方』愛知公演

【ワークショップ他】

7月：白井剛・ダンスクラス+ワークショップ(森下スタジオ)

11月：栗東芸術文化会館さくら・ワークショップ、小学校でのワークショップ(滋賀)

白井剛+根木山恒平 成安造形大学・特別講義(滋賀)

2月：渋谷区立幡代小学校での図画工作授業/ASIAS (Artist's Studio in a School) 芸術家と小学生プロジェクト

■ Grant-receiving term

From 2001 to 2003

■ Details on support during fiscal year 2001

Fiscal year: April 1, 2001 – March 31, 2002

Grant: ¥3,000,000

Studio Rental: (between June 2001 till May 2002): 32 days

■ Major activities during fiscal year 2001 (Performances)

July: *A Time-knit Sweater* performed at dance festivals in Warsaw and Amsterdam

August: Trial version of *How to enjoy him/her* per-

formed in Tokyo

October: *A Time-knit Sweater* performed in Rome, Cairo, and Paris as part of the Tokyo Contemporary Dance 2001 showcase

November: Leni-Basso x Strange Kinoko Dance Company x Baneto Solo Anthology tour of Tokyo, Kyoto, and Fukuoka

December: *A Time-knit Sweater* performed at the J-Dance Front Line festival organized by the Museum of Art, Kochi

January: *A Time-knit Sweater* performed at the Japan Society in New York as part of the Japanese Contemporary Dance Showcase

February: Premiere of *How to enjoy him/her* in Hyogo

March: *How to enjoy him/her* performed in Aichi (Workshops and other projects)

July: Tsuyoshi Shirai's dance class and workshop held at Morishita Studio

November: Workshops including an outreach program at an elementary school, plus a special lecture at the Seian University of Art and Design by Tsuyoshi Shirai and Kohei Negiyama, held in Shiga

February: Arts and crafts class by Baneto held at an elementary school in Tokyo as a project coordinated by the Tokyo-based not-for-profit organization ASIAS (Artist's Studio in a School)



From the Tokyo stage of *Long Distance Love*, September 2001. Photo: Koyomi Tamaru

2001年度より
From 2001



Shirotama Hitsujiya

主宰: 羊屋白玉 (劇作家・演出家・俳優)
制作: 上田 茂

artistic director: Shirotama Hitsujiya
(playwright, director, and actor)
producer: Shigeru Ueda
reception@yubiwahotel.com
<http://www.yubiwahotel.com>

■ 継続助成対象期間

2001年度から2003年度まで

■ 2001年度の助成内容

年度: 2001年4月1日ー2002年3月31日

金額: 3,000,000円

スタジオ提供 (2001年6月から2002年5月までの期間): 6日間

■ 2001年度の主な活動

【公演活動】

9月: 『Long Distance Love』(東京・ニューヨーク同時公演)

10月: 日本の舞台芸術を紹介する「Japan Now」にて『Yubiwan Beauty』を上演(ベルン)

11月ー12月: セゾン文化財団共催事業『Dreamtime in Morishita Studios』参加

【レジデンス、研修】

羊屋白玉、アジア・カルチュラル・カウンシルの助成によりニューヨークで研修を実施(2001年2月ー10月)

【その他】

12月: 故如月小春追悼リーディング『カガヤク』参加

■ Grant-receiving term

From 2001 to 2003

■ Details on support during fiscal year 2001

Fiscal year: April 1, 2001 – March 31, 2002

Grant: ¥3,000,000

Studio Rental: (between June 2001 till May 2002): 6 days

■ Major activities during fiscal year 2001
(Performances)

September: *Long Distance Love* performed simultaneously in Tokyo and in New York

October: Yubiwan Beauty performed in Bern as part of the “Japan Now” performing arts showcase tour
November-December: Hitsujiya and members of the company are invited to participate in *Dreamtime in Morishita Studios*, a collaboration project organized by TheatreWorks of Singapore and the Saison Foundation
(Residencies)

February-October: Hitsujiya's residency in New York as an Asian Cultural Council fellow

(Other projects and events)

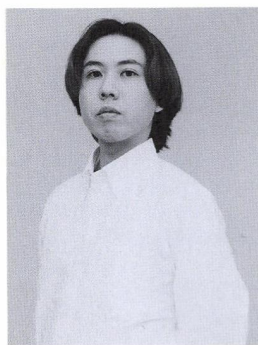
December: Participation in a reading event held in the memory of the late playwright/director Koharu Kisaragi

演劇弁当 猫ニャー[演劇/東京]

Engeki bento Neko-Nya (theater/Tokyo)



Beef, Onion and Cats, Tokyo, July 2001. Photo: Yoichiro Shimazaki



2001年度より
From 2001

Blue Sky

主宰：ブルースカイ(劇作家・演出家)

制作：梶縄佳世

artistic director: Blue Sky (playwright, director)

producer: Kayo Kajinawa

mail@neko-nya.net

http://www.neko-nya.net

■ 継続助成対象期間

2001年度から2003年度まで

■ 2001年度の助成内容

年度: 2001年1月1日-12月31日

金額: 3,000,000円

スタジオ提供(2001年6月から2002年5月までの期間): 12日間

■ 2001年度の主な活動

【公演活動】

7月: 『猫型物語〜Beef, Onion and Cats〜』東京公演

11月: TEAM共同責任『最後の晚餐』東京公演
(拙者ムニエルの村上大樹とブルースカイによるプロデュース公演)

【その他】

9月: 芸術見本市に劇団紹介の展示で参加、「ごみ拾い」「種まき」パフォーマンスを新宿周辺で開催、新人オーディション実施

10月: スペースゼロ提携公演「ラフカット2001」に脚本『ゴールデン・ラブソディ』を提供(東京)

■ Grant-receiving term

From 2001 to 2003

■ Details on support during fiscal year 2001

Fiscal year: January 1 – December 31, 2001

Grant: ¥3,000,000

Studio Rental: (between June 2001 till May 2002): 12 days

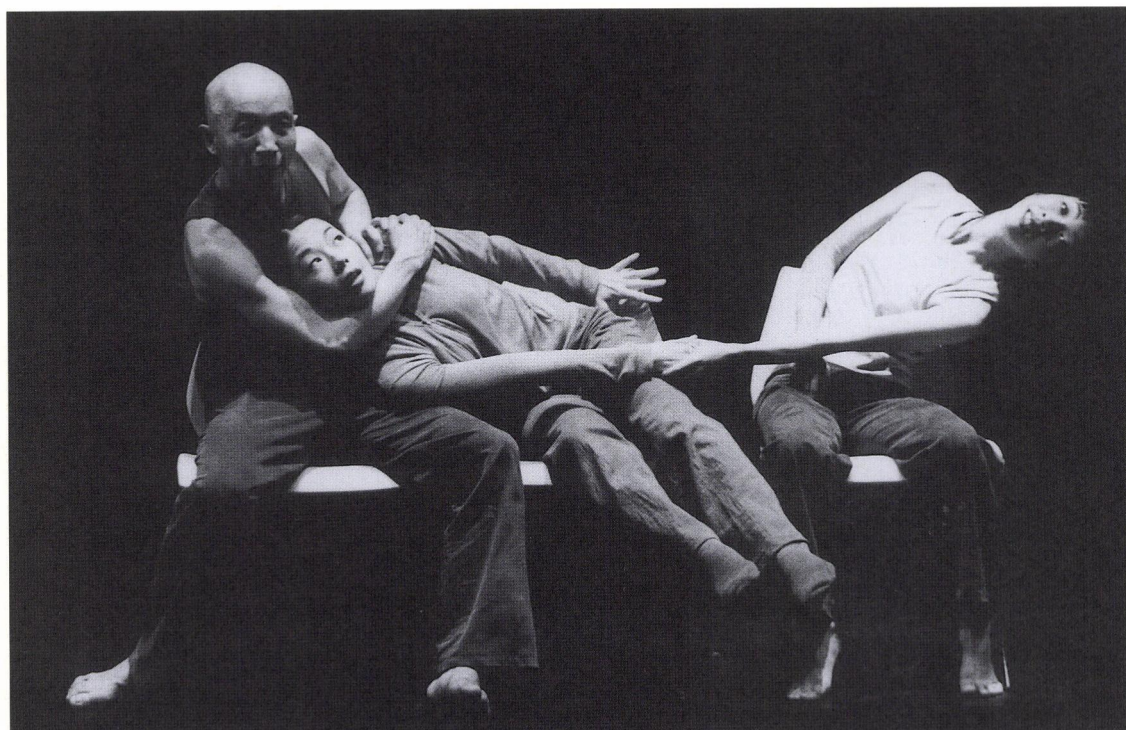
■ Major activities during fiscal year 2001
(Performances)

July: *Beef, Onion and Cats* performed in Tokyo

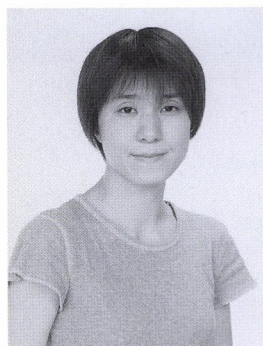
November: *The Last Supper* performed in Tokyo as a joint production with another theater company
(Other projects and events)

September: Promotional activities of the theater company at the Tokyo Performing Arts Market; outdoor experimental projects in Shinjuku, Tokyo; auditions

October: Blue Sky contributes a play to an omnibus-style performance event



Premiere of *Distance*, Tokyo, February 2002. Photo: Yoichi Tsukada



Takiko Iwabuchi

主宰: 岩淵多喜子(振付家・ダンサー)
制作: 野村真由美

artistic director: Takiko Iwabuchi
(choreographer, dancer)
producer: Mayumi Nomura
mayumin@bronze.ocn.ne.jp
<http://ludens.tripod.co.jp/>

2000年度より
From 2000

■ 継続助成対象期間

2000年度から2002年度まで

■ 2001年度の助成内容

年度: 2001年4月1日 - 2002年3月31日

金額: 4,000,000円

スタジオ提供 (2001年6月から2002年5月までの期間): 51日間

■ 2001年度の主な活動

【公演活動】

10月: アンクリエイティブ主催「ダンス・セレクション2001」に参加、『Be』-duo- (2001) 上演

2月: 横浜ダンスコレクション2002「Solo x Duo コンペティション」招待参加・『Be』-duo- 上演、第6回パークタワー・ネクストダンス・フェスティバルにて『Distance』を上演

【ワークショップ】

4月-5月: ワークショップ実施(東京)

12月-1月: カンパニークラス公開(森下スタジオ)

3月: 集中ワークショップ(森下スタジオ)

【レジデンス、研修】

5月-7月: 在日フランス大使館のスカラシップによりパリ、トゥール、研修・レジデンス実施、モンペリエにてワークショップとショーケース参加

7月-9月: アジアン・カルチュラル・カウンシルからの助成によりベイツ・ダンスフェスティバル参加、ニューヨークを訪問

11月: 秋吉台国際芸術村レジデンス

■ Grant-receiving term

From 2000 to 2002

■ Details on support during fiscal year 2001

Fiscal year: April 1, 2001 - March 31, 2002

Grant: ¥4,000,000

Studio Rental: (between June 2001 till May 2002): 51 days

■ Major activities during fiscal year 2001
(Performances)

October: *Be-duo*-(2001) performed in Tokyo as part of An Creative's Dance Selection 2001 event

February: *Be-duo*-invited and performed at the Solo x Duo Competition of the Yokohama Dance Collection 2002; premiere of *Distance* at the Sixth Park Tower Next Dance Festival in Tokyo

(Workshops)

April - May: Workshop in Tokyo

December - January: Open company class held at Morishita Studio

March: Intensive workshop series (Residencies)

May - July: Fellowships and residencies in Paris and Tours, plus a workshop and showcase program in Montpellier supported by a scholarship from the Embassy of France in Tokyo

July - September: Iwabuchi visits the Bates Dance Festival in Maine and New York on an Asian Cultural Council grant

November: Residency at the Akiyoshidai International Art Village in Yamaguchi



A scene from the performance of *Finks* at the Aichi Arts Center, February 2002. Photo: Ayako Nagatsuma



Akiko Kitamura
Photo:
Ayako Nagatsuma

主宰：北村明子 (振付家・ダンサー)
制作：布施龍一

artistic director: Akiko Kitamura
(choreographer, dancer)
executive director: Ryuichi Fuse
wildhany@kk.ij4u.or.jp
<http://www.leni-basso.com/>

2000年度より
From 2000

■ 継続助成対象期間

2000年度から2002年度まで

■ 2001年度の助成内容

年度：2001年4月1日－2002年3月31日

金額：4,000,000円

スタジオ提供 (2001年6月から2002年5月までの
期間)：66日間

■ 2001年度の主な活動

【公演活動】

7月：『Finks — short version —』ヨーロッパ公
演 (ワルシャワとアムステルダムでのダンスフェス
ティバルに参加)

10月：日本の舞台芸術を紹介するショーケース事
業「Japan Now」に参加、ベルリンにて『mute_mix』
『dovetail』を上演

11月：「レニ・バッソ×珍しいキノコ舞踊団×発条
ト ソロ・アンソロジー」企画・制作 (東京・京都・福
岡)、『dovetail』上演

2月：『Finks』愛知公演、『Finks』+『dovetail』兵
庫公演

【ワークショップ】

北村明子によるダンス初心者から上級者を対象
とした各種ワークショップを都内で主催 (4月、5
月、9月、3月)

【レジデンス、研修】

8月：北村明子、ベイツ・ダンスフェスティバル参加

■ Grant-receiving term

From 2000 to 2002

■ Details on support during fiscal year 2001

Fiscal year: April 1, 2001 – March 31, 2002

Grant: ¥4,000,000

Studio Rental: (between June 2001 till May 2002):
66 days

■ Major activities during fiscal year 2001
(Performances)

July: *Finks — short version* — performed at dance
festivals in Warsaw and Amsterdam

October: Performances of *mute_mix* and *dovetail*
at the “Japan Now” performing arts showcase in
Bern

November: *dovetail* performed during the “Leni-
Basso x Strange Kinoko Dance Company x Baneto
Solo Anthology” tour of Tokyo, Kyoto, and Fukuoka
February: *Finks* performed in Aichi; *Finks* and *dove-
tail* performed in Hyogo

(Workshops)

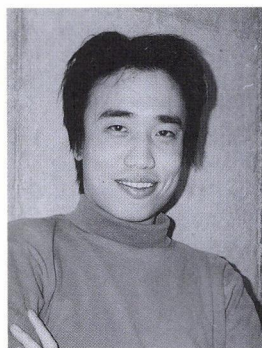
Dance workshops of various levels (from beginners
to experienced dancers) held in Tokyo by Akiko
Kitamura in April, May, September, and March

(Residencies)

August: Kitamura is invited to the Bates Dance
Festival in Maine



Tokyo performance of *Kaerudenchī*, June 2001. Photo: Kenichirou Mathumoto



2000年度より
From 2000

Shigefumi Fukatsu
Photo:
Kenichirou Mathumoto

■ 継続助成対象期間

2000年度から2002年度まで

■ 2001年度の助成内容

年度: 2001年1月1日ー12月31日

金額: 4,000,000円

■ 2001年度の主な活動

【公演活動】

6月ー7月: 『かえるでんち』東京・兵庫・滋賀公演

9月ー10月: タイタスプロジェクト+桃園会+遊

劇体『のにさくはな』公演(京都)

■ Grant-receiving term

From 2000 to 2002

■ Details on support during fiscal year 2001

Fiscal year: January 1 – December 31, 2001

Grant: ¥4,000,000

■ Major activities during fiscal year 2001

(Performances)

June – July: *Kaerudenchī* performed in Tokyo, Hyogo, and in Shiga

September – October: Joint performance project in Kyoto with other theater companies

主宰: 深津篤史(劇作家・演出家)

制作: 荒木千童

artistic director: Shigefumi Fukatsu
(playwright, director)

liaison officer: Chiwaka Araki
chiwaka@gd6.so-net.ne.jp



A scene from *Yaku Sanjyu no Uso* (Approximately Thirty Lies), Tokyo, September 2001. Photo: Masahiko Yakoh



Hideo Tsuchida

主宰: 土田英生 (劇作家・演出家・俳優)
制作: 垣脇純子

artistic director: Hideo Tsuchida
(playwright, director, actor)
producer: Junko Kakiwaki
mono@nk.rim.or.jp
<http://www.nk.rim.or.jp/~mono>

1999年度より
From 1999

■ 継続助成対象期間

1999年度から2001年度まで

■ 2001年度の助成内容

年度: 2001年4月1日ー2002年3月31日

金額: 4,000,000円

■ 2001年度の主な活動

【公演活動】

5月: 『その男達は鉄塔ににいるという』東京・滋賀・大阪公演 (OMSプロデュース公演)

9月: 『約三十の嘘』兵庫・東京・福岡公演

3月: 『橋を渡ったら泣け』大阪・東京・京都公演

【その他】

10月: 土田英生が文学座に脚本を書き下ろした『崩れた石垣、のぼる鮭たち』上演 (東京、静岡、京都等)

11月: 劇団青年座に土田英生が脚本を書き下ろした『悔しい女』が上演される (東京)

12月: 土田英生、イギリスにおける日本文化紹介年「JAPAN 2001」の一環でロンドンのブッシュシアターで行われる『その男達は鉄塔ににいるという』のリーディング (マイク・ブラッドウェル演出) のために渡英、同月『崩れた石垣、のぼる鮭たち』で土田英生が2001年度芸術祭優秀賞を受賞

■ Grant-receiving term

From 1999 to 2001

■ Details on support during fiscal year 2001

Fiscal year: April 1, 2001 – March 31, 2002

Grant: ¥4,000,000

■ Major activities during fiscal year 2001
(Performances)

May: Tour of *The Happy Lads* in Tokyo, Shiga, Osaka (produced by Ogimachi Museum Square)

September: *Yaku Sanjyu no Uso* (Approximately Thirty Lies) tour of Hyogo, Tokyo and Fukuoka

March: Premiere of *Hashi wo Watattara Nake* (Cry After You Cross the Bridge)

(Other projects and events)

October: Hideo Tsuchida's play commissioned by the theater company Bungakuza is performed in Tokyo, Shizuoka, Aichi, Kyoto, etc.

November: Gekidan Seinenza performs Tsuchida's newly written play for the theater company in Tokyo

December: Tsuchida visits London for the reading event of his play *The Happy Lads* (directed by Mike Bradwell) at the Bush Theatre; Tsuchida receives the National Arts Festival Excellence Award for 2001 in the field of theater for the play he wrote for the Bungakuza theater company

現代演劇・舞踊助成 芸術創造活動Ⅱ

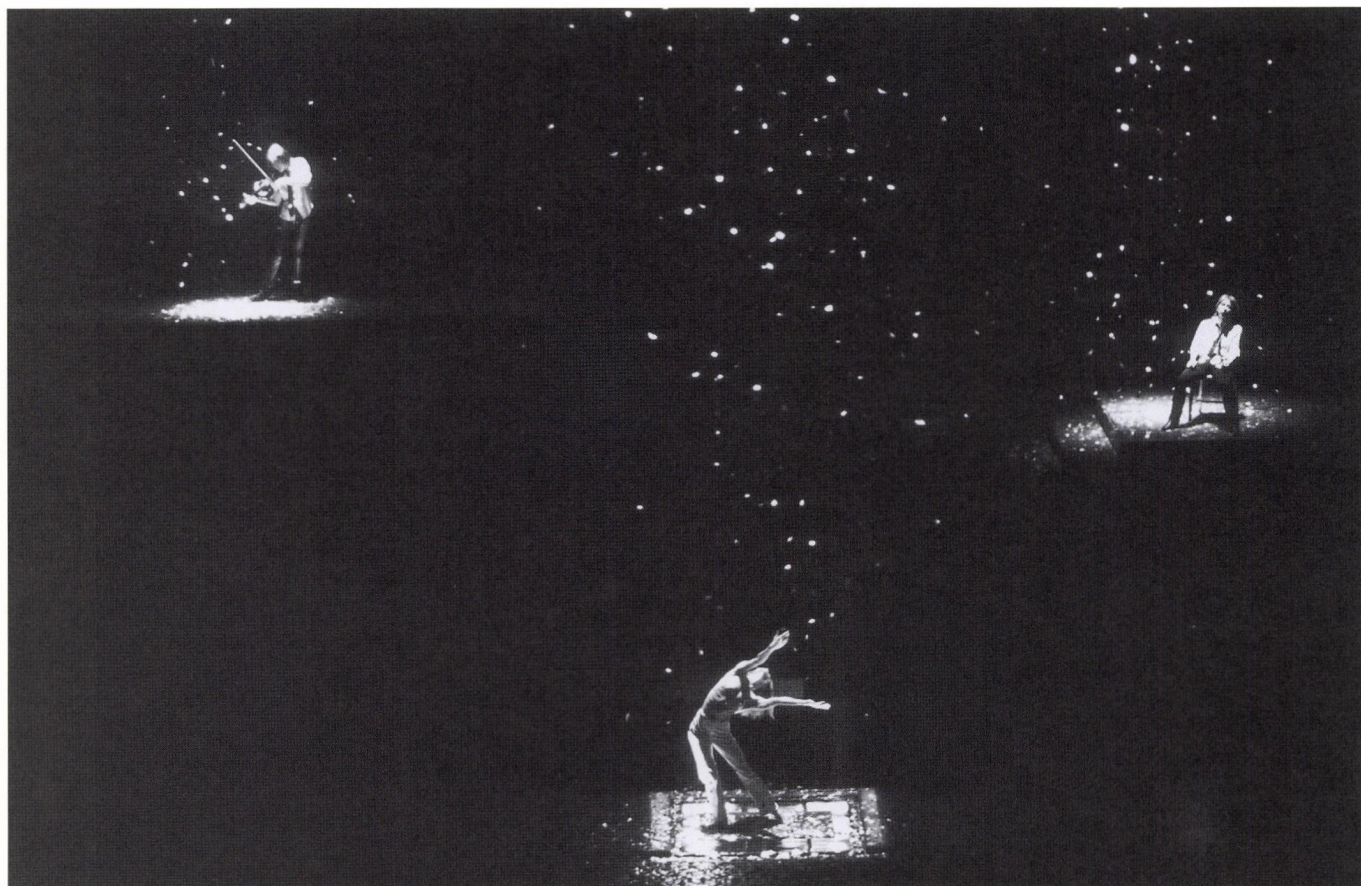
助成対象3件/ 助成総額18,000,000円

Contemporary Theater and Dance—Artistic Creativity Enhancement Grant Program II

3 Grantees/ Total appropriations: ¥ 18,000,000

H・アール・カオス/(有)東京アートファクトリー[舞踊/東京]

H. ART CHAOS/ Tokyo Art Factory Co., Ltd. (dance/Tokyo)



Premiere of *Suichoku no Yume (Le Songe Vertical)*, Tokyo, June 2001. Photo: Sakae Oguma



2000年度より
From 2000

Sakiko Oshima
Photo: INRI

主宰: 大島早紀子(演出・振付家)
制作: 柏 雅弘

artistic director: Sakiko Oshima
(director, choreographer)
producer: Masahiro Kashiwa
kashiwa@h-art-chaos.com
<http://www.h-art-chaos.com/>

■ 継続助成対象期間

2000年度から2002年度まで

■ 2001年度の助成内容

年度: 2001年4月1日ー2002年3月31日

金額: 6,000,000円

スタジオ提供(2001年6月から2002年5月までの
期間): 5日間

■ 2001年度の主な活動

【公演活動】

5月ー6月: 『春の祭典』+『グリザイユ』シンガ
ポール公演

6月: セゾンシアタープログラム コラボレー
ションシリーズVol. 1 with SUGIZO『垂直の夢』
公演(東京)

10月: 『鷹の井戸』公演(東京)

11月: 『ロミオとジュリエット』再演(東京)

【その他】

2002年1月: 『神々を創る機械』(2001年3月初
演)などの舞台効果が評価されて第1回朝日舞台
芸術賞を受賞

■ Grant-receiving term

From 2000 to 2002

■ Details on support during fiscal year 2001

Fiscal year: April 1, 2001 – March 31, 2002

Grant: ¥6,000,000

Studio Rental: (between June 2001 till May 2002):
5 days

■ Major activities during fiscal year 2001
(Performances)

May – June: *The Rite of Spring (Le Sacre du
Printemps)* and *Grizalle* performed in Singapore

June: Premiere of a collaboration work with rock
guitarist Sugizo entitled *Suichoku no Yume (Le
Songe Vertical)* in Tokyo as part of this year's Saison
Theater Program

October: *Taka no Ido (At the Hawk's Well)* per-
formed in Tokyo

November: *Romeo and Juliet* performed in Tokyo
(Other projects and events)

January 2002: H. Art Chaos receives the first Asahi
Performing Arts Awards for the stage effects of
Une machine à faire des dieux (premiered in March
2001) and other works.

伊藤キム+輝く未来[舞踊/東京]

KIM ITOH + the Glorious Future (dance/Tokyo)



From the premiere of *Screaming Garden* in Tokyo, July 2001. Photo: Osamu Awane (TES)



主宰: 伊藤キム(振付家・ダンサー)
制作: 高樹光一郎[ハイウッド]

artistic director: Kim Itoh (choreographer, dancer)
producer: Koichiro Takagi [Hi! Wood]
non-t@dc4.so-net.ne.jp
<http://www.geocities.co.jp/Hollywood-Miyuki/3773/index.html>

Kim Itoh
Photo: Nobutoshi Takagi

1999年度より
From 1999

■ 継続助成対象期間

1999年度から2001年度まで

■ 2001年度の助成内容

年度: 2001年1月1日-12月31日

金額: 6,000,000円

スタジオ提供(2001年6月から2002年5月までの期間): 35日間

■ 2001年度の主な活動

【公演活動】

3月: 伊藤キム振付新作『Close the door, open your mouth』世界初演(東京)

5月: 『抱きしめたい』ブライトン公演

5月-6月: カナダと日本のダンスコラボレーションプロジェクト「CJ8」の一環として作られた伊藤キム振付作品『Me and I』の日本初演(東京、京都、愛知)

6月: 『抱きしめたい』デュッセルドルフ公演

7月: 『激しい庭』国内公演(滋賀、東京)

9月: アダム・ベンジャミン&伊藤キム振付ダンス公演(埼玉)

12月: 『伊藤キム LIVE!』(東京)

【ワークショップ】

8月: 小学校でのワークショップ(東京)

9月: デモンストレーションとワークショップ(北海道、愛知)

【その他】

2002年1月: 伊藤キム、2001年度中に発表した『Close the door, open your mouth』と『激しい庭』で第1回朝日舞台芸術賞の寺山修司賞を受賞

■ Grant-receiving term

From 1999 to 2001

■ Details on support during fiscal year 2001

Fiscal year: January 1 - December 31, 2001

Grant: ¥6,000,000

Studio Rental: (between June 2001 till May 2002): 35 days

■ Major activities during fiscal year 2001
(Performances)

March: World premiere of Itoh's *Close the door, open your mouth* in Tokyo

May: *I want to hold you* performed in Brighton

May - June: Japanese premiere of *Me and I* in Tokyo, Kyoto, and Aichi as part of the Canadian-Japanese dance collaboration project entitled CJ8

June: *I want to hold you* performed in Dusseldorf

July: Premiere tour of *Screaming Garden* in Shiga and in Tokyo

September: Joint performance of choreographic works by Adam Benjamin and Kim Itoh in Saitama

December: *Kim Itoh LIVE!* event in Tokyo

(Workshops)

August: Workshop at an elementary school in Tokyo

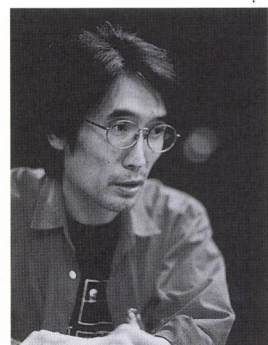
September: Demonstration and workshop sessions in Hokkaido and in Aichi

(Other projects and events)

January 2002: Itoh receives the Shuji Terayama Award of the first Asahi Performing Arts Awards for the two works premiered in 2001, *Close the door, open your mouth* and *Screaming Garden*



World premiere of *Bye-Bye: The New Primitive*, at Morishita Studio, June 2001. Photo: MIYAUCHI Katsu



主宰: 清水信臣 (演出家)
制作: 秦岳志

artistic director: Shinjin Shimizu
company manager: Takeshi Hata
gekidan@kaitaisha.com
<http://www.kaitaisha.com/>

Shinjin Shimizu
Photo: MIYAUCHI Katsu

1999年度より
From 1999

■ 継続助成対象期間

1999年度から2001年度まで

■ 2001年度の助成内容

年度: 2001年4月1日—2002年3月31日

金額: 6,000,000円

スタジオ提供 (2001年6月から2002年5月までの期間): 33日間

■ 2001年度の主な活動

【公演活動】

4月: 在日オーストラリア大使館における『Immersion into KAITAISHA』公演 (東京)

6月: セゾンシアタープログラム『バイバイ/未開へ』東京公演

9月: 『バイバイ/未開へ』ハンブルク、デュッセルドルフ、フランクフルト公演

10月: 同ニューヨーク、カーディフ、マンチェスター、ブライトン、アベリスウィス公演

11月: 同ロンドン公演のあと、アトランティックカレッジの学生とのコラボレーション事業と公演を実施 (セント・ドーナツ)

3月: 『De-Control』富山公演、『バイバイ/未開へ』石川公演

【その他の活動】

9月: 劇団のここ10年間の活動をまとめた書籍『劇団解体社[1991—2001]』刊行

■ Grant-receiving term

From 1999 to 2001

■ Details on support during fiscal year 2001

Fiscal year: April 1, 2001 – March 31, 2002

Grant: ¥6,000,000

Studio Rental: (between June 2001 till May 2002): 33 days

■ Major activities during fiscal year 2001

(Performances)

April: *Immersion into KAITAISHA* showing event at the Australian Embassy in Tokyo

June: *Bye-Bye: The New Primitive* performed in Tokyo as part of this year's Saison Theater Program

September: *Bye-Bye: The New Primitive* tour of Hamburg, Dusseldorf, and Frankfurt

October: *Bye-Bye: The New Primitive* tour of New York, Cardiff, Manchester, Brighton, Aberystwyth

November: *Bye-Bye: The New Primitive* performed in London, plus its site-specific and collaboration version with students from Atlantic College at the St. Donats Arts Centre in Wales

March: *De-Control* performed in Toyama; *Bye-Bye: The New Primitive* performed in Ishikawa

(Other projects and events)

September: A book summarizing the company's activities of the recent decade entitled *Theatre of Deconstruction/Kaitaisha (1991-2001)* is published in Tokyo (in English and in Japanese)

特別助成[非公募]

助成対象2件/ 助成総額1,500,000円

Special Project Support Grant Program (national)
[designated fund program]

2 Grantees/ Total appropriations: ¥ 1,500,000

日本現代音楽の代表的な作曲家の一人である一柳慧がこれまでの音楽作品をジャンルごとにまとめて演奏し、自身の音楽世界の全体像を紹介するシリーズの第一回目(2001年7月)に助成。今回は洋楽器に限らず笙や尺八といった伝統楽器を含む管楽器作品が取り上げられ、氏の管楽器の扱いや特徴、響きの工夫が明瞭に提示された。さらに作曲家の伊東乾に委嘱した新作も演奏され、若手に作品発表の場と演奏会の制作に関わる機会を提供した。一柳作品の紹介に留まらず、現代音楽という分野の普及・紹介に貢献する演奏会となり、今後の発展が期待される。

なお当プログラムではこの他に、第2回東京文化会館舞台芸術創作作品優秀作品賞を受賞した音楽劇『責めありや?責めなきや?~異端児Kの恋愛と闘争~』(中村寛作曲、大岡淳演出、中川賢一指揮)の2002年2月の記念上演を手がける舞台芸術創造フェスティバル2001実行委員会に対しても臨時で助成が決定した。

The Saison Foundation supported a concert held in Tokyo in July 2001 by Toshi Ichianagi, one of Japan's leading contemporary music composers. The concert, which was the first set of an annual series arranged instrumentally, featured Ichianagi's compositions for wind instruments that included not only those written for European instruments but also for traditional Japanese ones such as the *sho* and the *shakuhachi* and clearly proved Ichianagi's creativity in using the tones and features of each wind instrument. Another notable aspect of the series is the performance of a newly written piece commissioned by Ichianagi to a young composer in order to provide opportunities to promising artists to let their work be heard in public and to experience the process of producing a live performance. In the case of this opening set of the series, the work of a composer named Ken Ito was performed. This concert was successful in both presenting Ichianagi's works in a different context and in promoting contemporary music.

An extra grant was given to the Executive Committee of the Performing Arts Creation Festival 2001 for a performance of a music drama in February 2002 written by a young composer, Hiroshi Nakamura, who won the Best Creative Performing Arts Work award from the Tokyo Metropolitan Festival Hall.

一柳慧

一柳慧作品演奏会 管楽器の世界

2001年7月3日

東京(サントリーホール 小ホール)

1,000,000円

Toshi Ichianagi

Toshi Ichianagi Composition Concert

July 3, 2001

Tokyo (Suntory Hall - Small Hall)

¥1,000,000

[臨時決定]

舞台芸術創造フェスティバル2001実行委員会
第2回「東京文化会館舞台芸術創作作品優秀作品賞」受賞作の上演

2002年2月8日

東京(東京文化会館小ホール)

500,000円

[extra grant]

Executive Committee of the Performing Arts
Creation Festival 2001

Performance of the Best Creative Performing
Arts Work at the Tokyo Metropolitan Festival
Hall's Second Creative Festival

February 8, 2002

Tokyo (Tokyo Metropolitan Festival Hall - Small Hall)

¥500,000



Concert featuring the wind instrument works of Toshi Ichianagi, with the composer at the piano (second from right), Tokyo, July 2001.



Performance of an award-winning music drama composed by Hiroshi Nakamura in February 2002 at the Tokyo Metropolitan Festival Hall.

国際交流助成プログラム International Grant Programs

1. 知的交流プログラム Intellectual Exchange Programs

1-1 現代演劇・舞踊助成—知的交流活動プログラム

国際会議・シンポジウムの開催、翻訳出版などを通して日本の現代演劇・舞踊芸術の国際化を促進する事業に対して助成をする本プログラムでは、昨年に引き続き日本劇作家協会による翻訳出版事業『現代日本の劇作 第4巻』、および劇作家交流実行委員会の「ドラマ・リーディング〜日本の若手劇作家の現在 Vol.1 in U.K.」に助成を行った。

双方とも日本の現代演劇を海外に紹介するうえで非常に重要な事業である。日本劇作家協会では、日本の現代演劇戯曲の海外普及に向けて、90年代作家の紹介から翻訳出版をすすめてきたが、第3巻に引き続き2001年度に刊行された第4巻も80年代の代表的作家たち—北村想、川村毅、鄭義信、岸田理生、野田秀樹—の作品をとりあげた。後者の日本の現代戯曲のドラマ・リーディングは、英国における日本文化の紹介事業「Japan 2001」の一環として開催されたもので、ロンドンのブッシュシアターにて現地の演出家、俳優らによって夏と冬の2回にわけて実施された。夏には劇作家協会の協力を得て、『現代日本の劇作』から永井愛と鈴江俊郎の作品を選択、秋には土田英生、長谷川孝治の作品が新たに翻訳をおこして紹介された。劇作家本人も演出家や翻訳家と直接の対話を繰り返しリーディング用の台本作成に関与。さらに解説者として批評家の扇田昭彦、九鬼葉子も同行し、シンポジウムを併催。英国の観客により深い理解をもって受け入れられる機会となった。また、本事業がその後永井愛へのブッシュシアターからの書き下ろし依頼につながったことは大きな成果と言える。

現代戯曲の翻訳は、最終的には上演につながる事が目的である。上演に結びつくためには、きっかけとなる翻訳戯曲が必要であり、翻訳出版からリーディングへと展開した今回の共同作業は誠に望ましいものだったと言える。今後は、翻訳出版された戯曲が海外でより多くの演劇人の目にとまるような流通経路の開拓も必要であろう。この点についても、インターネット上での戯曲のシノプシスの公開準備にとりかかっているとい

うことなので期待したい(セゾン文化財団ニュースレター「viewpoint」2002年6月10日号特集「日本の戯曲の翻訳」を参照)。

1-2 翻訳出版助成【非公募】

日本の社会科学および人文科学などに関する文献を海外に継続的に紹介する活動を支援する本プログラムではドイツと中国での翻訳出版事業を中心に助成が行われた。

ミュンヘンに拠点を置く出版社ユディツィウム社(iudicium Verlag GmbH)は、当財団の助成を受けて1999年度より5年間にわたって日本の社会科学、人文科学の著作をドイツ語に翻訳し、シリーズとして出版している。3年度目にあたる2001年度には前年度の助成を充当して加藤周一著『夕陽妄語』のアンソロジーが刊行された。

日本の現代詩を中国に紹介する目的で始まった日中現代詩交流プログラムでは、日本側のアドバイザー委員会と中国側の作家出版社との交渉の結果、翻訳と出版に関する具体的な内容が決まり、2002年3月に北京で覚書が交わされた。日本の詩人55名の作品を収録するアンソロジー『日本当代詩選』の刊行は2003年4月以降の見込み。

なお、当プログラムでは上記以外にベルリン日独センターが2001年10月に開催し、大橋良介京都工芸繊維大学教授をはじめとする日独の学者が参加したシンポジウム「人間は何を知っているべきか 科学技術時代の倫理—哲学者と自然科学者との対話」に対しても助成を行った。

1-1 Contemporary Theater and Dance-Intellectual Exchange Grant Program

The aim of this program is to improve the visibility of contemporary Japanese theater and dance within the world's performing arts community by supporting international conferences, symposia, and translation and publication projects related to the above two fields of performing arts. In 2001, the program supported the English translation and publication of an anthology series of contemporary Japanese plays entitled *Half a Century of Japanese Theater*, compiled by the

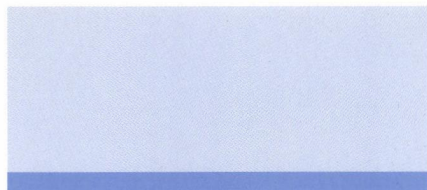
Japan Playwrights Association, for three years in a row, and "Emerging Japanese Playwrights Vol. 1 in the U.K.," a drama reading project featuring contemporary Japanese plays in London organized by the Tokyo-based Playwrights Exchange Forum.

Both projects played a crucial role in setting examples of introducing contemporary Japanese theater to other cultures. Japan Playwrights Association's *Half a Century of Japanese Theater* began with the plays of the 1990s and continues to trace back the history of contemporary Japanese theater. Volume Four, published in 2001, is the second book on the major works of the 1980s including those by five playwrights: So Kitamura, Takeshi Kawamura, Chong Wishing, Rio Kishida, and Hideki Noda. The drama reading project by the Playwrights Exchange Forum was held as part of the Japan 2001 festival in the U.K. in the summer and autumn of that year at the Bush Theatre in London with British directors and actors. The Japan Playwrights Association assisted the summer session, which featured the works of Ai Nagai and Toshiro Suzue that were published in the first volume of *Half a Century of Japanese Theater*, while the plays of Koji Hasegawa and Hideo Tsuchida were specially translated into English for the autumn session. On both occasions, the playwrights themselves went to London and participated in the making of the actual reading session scripts by discussing with the directors and translators. In addition, a symposium was held for each session in which theater critics Akihiko Senda and Yoko Kuki took part in as commentators. As a result of this successful project, the Bush Theatre commissioned Ai Nagai to write a play.

Since the ultimate objective of translating a contemporary play is to have it staged in another language, the development from a translation/publication project to a reading session project is one phase of progress. The next step is to find means to let such translated plays be read by theater artists around the world. The Japanese Playwrights Association is now preparing to upload synopses of Japanese plays in English on their website, which should be an appropriate start in this direction.

1-2 Translation/Publication Project Grant Program (designated fund program)

In 2001, projects that took place in Ger-



many and in China were given financial support under this program, which provides assistance to multi-year projects intended to introduce aspects of Japanese social science and humanities to other nations.

judicium Verlag GmbH, a publishing company based in Munich, is carrying out a five-year series to translate and publish works of social science and humanities by Japanese authors since 1999 with the support from the Saison Foundation. In the third year of the series, an anthology of essays on culture, politics, and contemporary history by Shuichi Kato entitled *Sekiyo Mougo* (Brash Words at Sunset) was published under the title *Narrische Gedanken am Abend — Essays zu japanischer Kultur, Politik und Zeitgeschichte* with a grant made by the Saison Foundation in the previous year.

The Sino-Japanese Contemporary Poetry Exchange Program, whose objective is to present contemporary Japanese poetry in China, saw progress in the talks between the Japanese advisory board and the Chinese publisher, and details related to translation and publication were finalized in March 2002 in Beijing. An anthology of the works of fifty-five Japanese poets will be published after April 2003.

An extra grant was made to Japanisch-Deutsches Zentrum Berlin (Japanese German Center Berlin) for their symposium that was held in October 2001 entitled "Ethics in the Age of Technology — Dialogue Between Philosophers and Natural Scientists," featuring Dr. Ryosuke Ohashi, Professor of Philosophy at the Kyoto Institute of Technology, and other scholars from Germany and Japan.

現代演劇・舞踊助成—知的交流活動プログラム

助成対象2件/ 助成総額4,000,000円

日本劇作家協会

『現代日本の劇作 第4巻』(*Half a Century of Japanese Theater IV — 1980s Part 2*)

2001年4月1日—2002年3月31日

日本(出版社: 紀伊國屋書店)

2,000,000円

劇作家交流実行委員会

ドラマ・リーディング〜日本の若手劇作家の現在
Vol.1 in U.K.

2001年7月18日—12月2日

ロンドン(ブッシュシアター)

2,000,000円

翻訳出版助成(非公募)

助成対象3件/ 助成総額4,300,000円

judicium Verlag GmbH

日本の精神文化に関する著書2冊—独語への翻訳

2001年1月1日—12月31日

ミュンヘン

2,500,000円

日中現代詩交流プログラム

日中現代詩交流プログラム

2001年4月1日—2002年4月30日

北京、東京

1,500,000円

[臨時決定]

ベルリン日独センター

シリーズ「東と西」第7回シンポジウム

「人間は何を知っているべきか」

科学技術時代の倫理—哲学者と自然科学者との対話

2001年10月25日—26日

ベルリン(ベルリン日独センター会議場)

300,000円

Contemporary Theater and Dance—Intellectual Exchange Grant Program

2 Grantees/ Total appropriations: ¥4,000,000

Japan Playwrights Association

Half a Century Of Japanese Theater Vol.4 - 1980s Part 2

April 1, 2001 – March 31, 2002

¥2,000,000

Playwrights Exchange Forum

Drama Reading — Emerging Japanese Playwrights Vol.1 in the U.K.

July 18 – December 2, 2001

London (The Bush Theatre)

¥2,000,000

Translation/Publication Project Grant Program

[designated fund program]

3 Grantees/ Total appropriations: ¥ 4,300,000

judicium Verlag GmbH

Translation and publication of two books on Japanese ethos into German

January 1 – December 31, 2001

¥2,500,000

Sino-Japanese Contemporary Poetry Exchange Program

Sino-Japanese Contemporary Poetry Exchange Program

April 1, 2001 – April 30, 2002

Beijing, Tokyo

¥1,500,000

[extra grant]

Japanisch – Deutsches Zentrum Berlin (Japanese German Center Berlin)

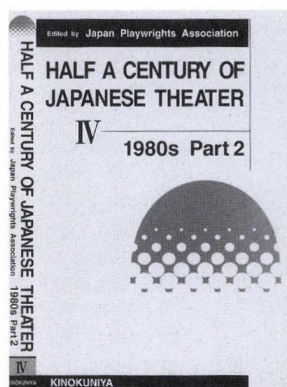
"East and West" Symposium Series No. 7

"Ethics in the Age of Technology – Dialogue Between Philosophers and Natural Scientists"

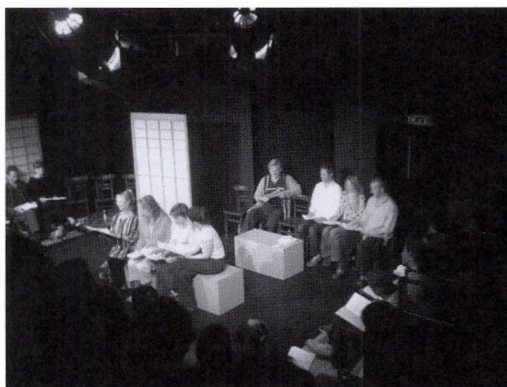
October 25-26, 2001

Berlin (Japanese German Center Berlin Conference Room)

¥300,000



Dust jacket of *Half a Century of Japanese Theater Vol.4 — 1980s Part 2*.



From the reading session of Ai Nagai's *Time's Storeroom* at the Bush Theatre, organized by the Playwrights Exchange Forum, July 2001.



Cover of Shuichi Kato's book published by judicium Verlag GmbH of Munich in 2001.

国際交流助成プログラム International Grant Programs

2. 芸術交流プログラム Artistic Exchange Programs

現代演劇・舞踊助成—芸術交流活動I: プロジェクト支援

このプログラムでは、国際間での相互理解を推進する日本の現代演劇・舞踊の海外公演、招聘受け入れ公演、国際共同創造事業に対して資金、および必要な場合には森下スタジオの稽古場を提供している。

今年度は、海外での評価がすでに高い中堅カンパニーへの継続的なサポートに加え、いくつかの若手ダンスカンパニーの海外公演に助成が決定した。水と油は抽象化された芸術性の高い独自のマイムを上演するパフォーマンスカンパニーで、ユニークな存在として海外からも注目を集めている。ニブロール、Monochrome Circus、SAL VANILLAは、ダンス以外のジャンルからのアーティストもカンパニーの構成員として参加し、一人の振付家が作品全体の指揮をするのではなく、メンバー各自の才能を生かしながら作品を創作。いずれの若手カンパニーも身体表現のみならず空間美術や映像、音楽にも比重を置いた活動を展開している。公演の形態も美術館や画廊、大学、野外など、劇場にこだわらない。海外のアーティストとも友人のように気軽につきあい、それを交流のきっかけとする彼らのこのフットワークの軽さが、国際交流の新しいダイナミズムを生み出すことに期待したい。

国際共同創造では、3年間にわたって助成を続けてきた「日本/カナダ 新世紀の創造者たちシリーズ『新世紀へのニュームーブメント』」(CJ8)が日本/カナダダンスプロジェクト実行委員会の主催により最終年を迎えた。これは双方の国の振付家が相手国のダンサーを使った作品を創作してそれぞれの国で上演するという事業で、参加したアーティストのみならず日本・カナダ両国の助成機関やダンス専門家、制作者、劇場などダンス関係者の継続的な協力態勢のもとに実現した。また、演劇では青年団のプロデュースによる日仏間のコラボレーションプロジェクト『ヌ・ドゥ・ネージュ・パ・エシネ1ー』のフランス公演に助成。演出は仏・マルセイユのボワン・アヴーグル劇団の芸術監督を務めるフランソワ=ミッシェル・ブザンティ。99年から開始されたこのプロジェクトは、上演にいたるまでの異文化交流のプ

ロセスに重点をおき、改作を重ねながら創作していく実験的な作品で、フランスでの創作と初演の後、来年度に日本での上演を予定している。

現代演劇・舞踊助成—芸術交流活動II: 活動運営支援

国際交流の場面にあっても、一つの事業が実現するためには複数年にわたる入念な準備と調査が必要である。本プログラムは、中心的役割をもって国際交流を推進する中堅カンパニーを対象に今年度から開始された。助成対象者には3年にわたって助成金および森下スタジオ使用の優先権が付与される。

初年度の対象者となったのは、株式会社劇団第三エロチカと特定非営利活動法人ク・ナウカシアターカンパニーの二者である。

第三エロチカは80年に演出・劇作家の川村毅を主宰者に旗揚げ。26歳で岸田国士戯曲賞を受賞。早くから国際的視野を持つ作品を発表し、91年にドイツのテアター・デアヴェルト(世界演劇祭)招待公演を皮切りに幅広く海外に進出。最近、「ロスト・バビロン」、「ハムレット・クローン」といった戯曲を中心にしたコラボレーションプロジェクトも開始し、時間をかけて翻訳、リーディングを重ねつつ上演をたちあげる計画を遂行している。

ク・ナウカシアターカンパニーは、演出家宮城聰を中心に90年に結成。ひとつの役を語りと動きの「二人一役」で演じる手法で知られるカンパニーで、その特徴を生かし海外での公演や外国語圏の俳優とのコラボレーションなどを積極的に行っている。また、海外公演においては「ルーツを遡る旅として」のアジアツアー、西洋演劇史への「返礼」として、西洋古典劇をアジアからの視点で捉え返した作品を上演するヨーロッパツアーの2つをコンセプトに国際交流活動を推進している。

Contemporary Theater and Dance — Project Support Grant Program

This program awards grants and/or priority use of the rehearsal facilities at Morishita Studio to projects aimed to promote mutual understanding between Japan and other cul-

tures, such as international tours by contemporary Japanese theater and dance companies, performances in Japan by foreign performing artists, and to international collaboration projects.

In 2001, the Saison Foundation offered continuous support to a number of recognized companies and also awarded grants to international touring and collaboration projects by a new generation of dance companies. Performance Theatre Mizu-To-Abura (meaning “water and oil”) is a company gaining attention in recent years for its abstract and highly artistic original pantomime. Nibroll, Monochrome Circus, SAL VANILLA are dance companies in which each member contributes his/her talents and is actively and equally committed to the creative process rather than entrusting complete control to the artistic director/choreographer. These companies have brought in artists from other genres into their creative units, and place weight equally on plastic and video art and music as to physical expression in their works, which are performed in halls and theaters as well as art museums, galleries, universities, and outdoors. They are capable of establishing close and casual ties with artists of other cultures easily, and shift effortlessly to actual collaboration projects based on such friendships. Perhaps a new and dynamic style of international exchange may arise from the nimbleness and vitality of these dance companies.

In the collaboration project category, a grant was awarded to the Canada/Japan Dance Project Organizing Committee, which was responsible for the third and final year of a project entitled *CJ8 Canada/Japan Dance Partnership* that the Saison Foundation had supported from its outset. Conceived by the Harbourfront Centre of Toronto, this project invited choreographers from Canada and Japan to create a piece with dancers from each other's country and staged the outcome of their collaboration in the cities of the two countries. From a collaborative point of view, it was a truly substantial project in which artists, dance specialists, producers, theaters, and funding sources of both nations got together to make it happen during a span of three years. In the field of theater, the French tour of a Franco-Japanese collaboration project co-produced by *Seinendan* and directed by François-Michel Pesenti, artistic director of the Marseilles-based company Théâtre du Point

Aveugle, entitled *Nœuds de Neige* (Snow Clusters): *Paesine 1* was awarded a grant. This experimental piece of work, which began in 1999, placed emphasis on the intercultural exchange process and underwent a number of revisions before being shown to the public. Following its creation and world premiere in France, the play is scheduled to tour Japan in the 2002/2003 season.

Contemporary Theater and Dance — Process Support Grant Program

An international exchange project usually takes a few years of thorough preparations and research before it is actually materialized. In 2001, we began this program in which grants and priority use of Morishita Studio are awarded for three consecutive years to Japanese performing artists/companies who are anticipated to play an important role in the field of international exchange through contemporary theater and dance.

The first grant recipients of this program were **Daisan Erotica** and **Ku Na'uka Theatre Company**.

Daisan Erotica was founded in 1980 by playwright and director Takeshi Kawamura, who won the prestigious Kishida Drama Prize at the age of twenty-six. The company began producing works that had a global perspective at an early stage and since 1991, the year they were invited to the Theater der Welt festival in Germany, they have performed and worked vigorously in a number of countries. Daisan Erotica has recently been conducting international collaboration projects based on Kawamura's two plays, *Lost Babylon* and *Hamlet Clone*, and is making steady progress on their translation and reading projects that should eventually lead to actual productions outside of Japan.

Director Satoshi Miyagi formed Ku Na'uka Theatre Company in 1990. This company is known for its unique method of having two actors play one role by dividing it into a "speaker" and a "mover," which has enabled them to work actively in different cultures in the forms of international tours or collaboration projects with actors of other languages. The tours of Ku Na'uka represent its two concepts of international cultural exchange. One is to travel Asia as a voyage to trace back the origins of Asian people and culture; the other is to express its gratitude to the history of European theater by staging classics of the West interpreted from an Asian viewpoint.

■海外&受入公演

アンクリエイティブ

リトル・アジア・ダンスプロジェクト

2001年9月28日—10月25日

メルボルン、台北、香港、東京、ソウル(ベケットシアター、皇冠小劇場、香港アーツセンター、アサヒスクエアA、ソウルアーツセンター)

2,000,000円

■海外公演

維新派

維新派 ヨーロッパツアー『チャンチャン★オペラ流星』

2001年9月19日—11月14日

ハンブルク、ルビエラ、ベルファスト(カンブナーゲル、テアトロ・ヘルベルテ、ペイント・ホール・スタジオ)

3,000,000円

ダムタイプ/(有)ダムタイプオフィス

ダムタイプ“memorandum”アメリカツアー

2002年2月28日—3月24日

シカゴ、シアトル、ポートランド、ミネアポリス(シカゴ現代美術館、オン・ザ・ボード、PICA、ウォーカーアートセンター)

1,500,000円

ニブロール

ニブロール「フランス・アメリカ ニカ国海外ツアー」企画

2001年7月10日—8月5日

アヴィニオン、ポートランド、サンフランシスコ(フュナンベル劇場、ポートランド大学、アルト劇場)

1,500,000円 スタジオ提供9日間

nest

nest欧州ツアー

2001年10月12日—10月17日

ヘルシンキ、ベルリン(キアスマシアター、クンストヴェルク)

1,500,000円 スタジオ提供41日間

パフォーマンス シアター 水と油

水と油 ヨーロッパ・ツアー

2001年7月12日—8月13日

モンカリエリ、ブライトン、エディンバラ(テアトロポリスフェスティバル、コメディア・シアター、コメディアセイント・スティブンス)

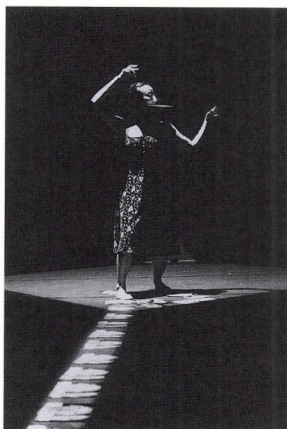
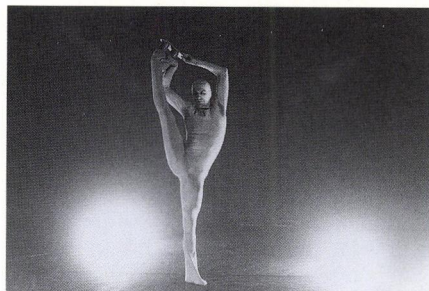
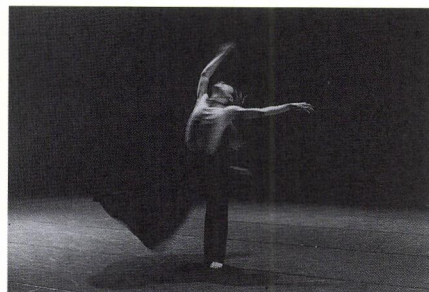
1,500,000円 スタジオ提供20日間

Monochrome Circus

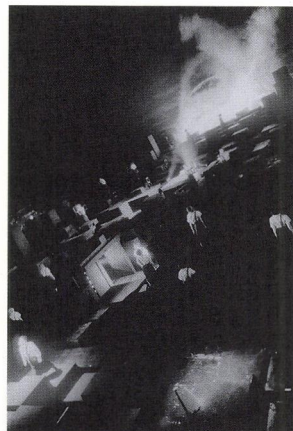
第3回モノクロームサーカス ヨーロッパツアー『収穫祭 2001』

2001年10月2日—11月7日

カウナス、ベルリン、コッブス、オーヴェルスルワーズ、パリ、オンギャンレバン、イヴリースール



Scenes from the Little Asia Dance Project, coordinated by An Creative. (From top to bottom) Bloom by Tsuyoshi Ozawa of Tokyo; Ward: Human Meat Processing Works by Brett Daffy of Melbourne; Flashback by Hyun Hea Bang of Seoul. Photos: Osamu Awane (TES)



From the European tour of Ishinha's *Ryusei* — a *jan* opera. Photo: Kohji Fukunaga

セーヌ、メリスールオワーズ、モンモアンシー、モンペリエ(ヴィタウタス・マグナッス大学ホール、タンツファブリック、コッブス・シティホール、オー



A "delivery" performance at Quartier de la Paillade, Montpellier, France, by Monochrome Circus, November 2001, as part of their Shukakusai project. Photo: Mutsuko Ariyoshi

ブニー大学、オンギャンレバン駅ホール、エコールデュブレ、在仏日本大使館広報文化センター、ラパイヤード・スタジオ・ラボラトワール、ラパイヤード団地広場、コメディ広場、その他個人宅)
1,500,000円

山崎広太・ロージーコー

山崎広太・rosy CO., アメリカ公演『Chinoise Flower』

2001年9月3日-10月1日

サンフランシスコ、フェニックス、アムアースト(イエルバブエナセンター、アリゾナ州立大学、マサチューセッツ大学)
スタジオ提供47日間

■海外公演: ショーケース事業

JAPAN NOW実行委員会

JAPAN NOW

2001年10月15日-10月30日

ベルン、グダンスク(Rethalle10, Wybreze Theater)

2,000,000円

東京コンテンポラリーダンス 2001実行委員会

東京コンテンポラリーダンス 2001

2001年10月16日-10月28日

ローマ、カイロ、パリ(グレコ劇場、オペラハウス、パリ日本文化会館)

1,000,000円

■共同創造活動

神奈川芸術文化財団

コンテンポラリー・アーツ・シリーズ「ドゥクフレ・ワークショップ」〜dance today7 by ASK〜

2001年9月14日-2002年3月3日

神奈川(かながわドームシアター、ランドマークホール)

1,000,000円

ko & Edge

室伏鴻ダンス公演『Edge 01』

2001年10月24日-10月25日

東京(シアタートラム)

2,000,000円

SAL VANILLA

『survival/colony』日本・ドイツ共同制作公演

2001年11月22日-12月3日

ベルリン(タヘレスシアター)

1,000,000円

青年団/アゴラ企画

『ス・ドゥ・ネージュ(スノー・クラスターズ)ーパエシネ1ー』

2002年3月7日-3月16日

ルベスト・レーズ(ラ・メゾン・デ・コモニ・オルベスト・レーズ)

2,000,000円

日本国際パフォーマンス・アート・フェスティバル(ニバフ)実行委員会

第6回アジア・パフォーマンス・アート連続展

2001年7月23日-8月7日

京都、愛知、東京、長野(Art Complex 1928、夢中食堂アートスペース、ZA HALL、飯綱山荘、ネオンホール)

1,500,000円

日本/カナダ ダンスプロジェクト実行委員会

CJ8 Canada/Japan Dance Partnership

2001年5月31日-6月7日

東京、京都、愛知(スパイラルホール、京都芸術センター、愛知県芸術劇場小ホール)

2,000,000円

パパ・タラフマラ

Pappa TARAHUMARA 『WD』 Project 2001

2001年9月1日-12月11日

東京、サンフランシスコ(森下スタジオ、イエルバブエナセンター、世田谷パブリックシアター)

スタジオ提供30日間

Contemporary Theater and Dance—Project Support Grant Program

17 Grantees/ Total appropriations: ¥ 25,000,000

■ workshop/performance exchange project

AN Creative Inc.

Little Asia Dance Exchange Network

September 28 – October 25, 2001

Melbourne, Taipei, Hong Kong, Tokyo, Seoul (Beckett Theatre, Crown Theater, Hong Kong Arts Centre, Asahi Square A, Seoul Arts Center)

¥2,000,000

■ touring projects

Dumb Type/Dumb Type Office Ltd.

Dumb Type "memorandum" USA Tour

February 28 – March 24, 2002

Museum of Contemporary Arts, Chicago On the Boards, Newmark Theater, Guthrie Lab (Museum of Contemporary Art, On The Boards, PICA, Walker Art Center)

¥1,500,000

ISHINHA

ISHINHA European Tour of Ryusei — a jan jan opera

September 19 – November 14, 2001

Hamburg, Rubiera, Belfast (Kampnagel, Teatro Herbert, Paint Hall Studio)

¥3,000,000

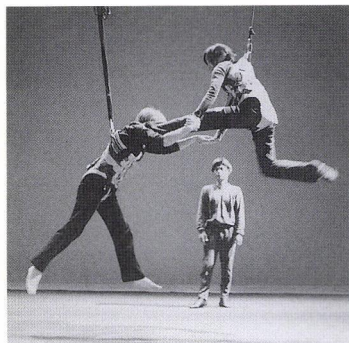
Kota Yamazaki Rosy Co.,

Kota Yamazaki Rosy Co., U.S. Tour of Chinoise Flower

September 3 – October 1, 2001

San Francisco, Phoenix, Amherst (Yerba Buena Center for the Arts Theater, Arizona State University, University of Massachusetts)

Studio Rental: 47 days



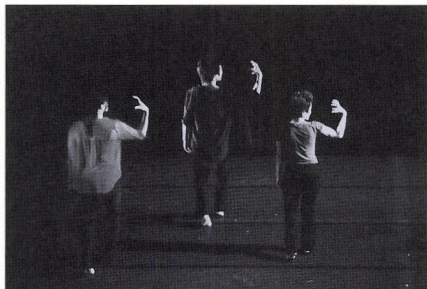
Philippe Decoufle's "flying" workshop, organized by the Kanagawa Arts Foundation
Photo: Quentin Bertoux



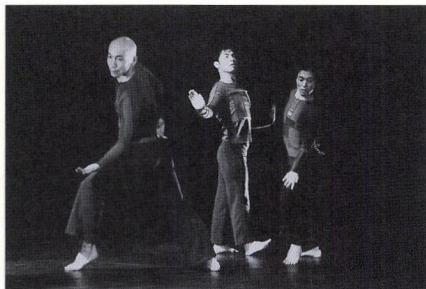
A scene from a collaboration piece entitled *survival/colony* created by SAL VANILLA with performance units 66b and cell of Japan and the Berlin/New York-based company post theater, at the Tacheles Theater in Berlin, November-December 2001.



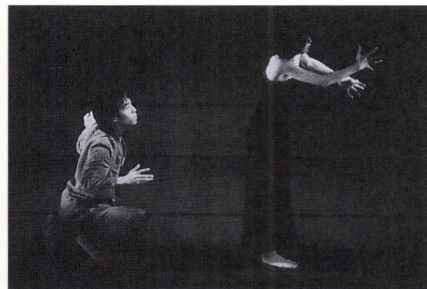
From the French tour of a Franco-Japanese collaboration work, *Nœuds de Neige (Snow Clusters): Paesine 1*, co-produced by Seinendan and directed by François-Michel Pesenti, March 2002.



Moi Qui Tremblais, Choreographer: Serge Bennathan; Dancers: Motoko Ikeda, Yukari Nonaka, and Miki Sato



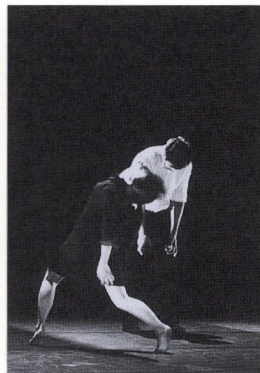
Tanka, Choreographer: Louise Bedard; Dancers: Yoshihiro Fujita, Masaharu Imazu, and Keiichi Otsuka



Grey Suit But Black Dress, Choreographer: Tedd Robinson; Dancers: Mitsutake Kasai and Mako Kawano



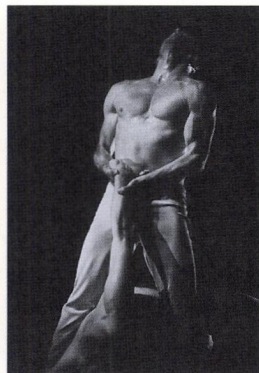
Sora no Sakana/Fish Floating Night Sky, Choreographer: Kota Yamazaki, Dancer: Robin Calvert



VIA, Choreographers: Holy Body Tattoo (Dana Gingras and Noam Gagnon), Dancers: Michihiko Kamakura and Masako Sugimoto



She Who Devours the Moon, Choreographer: Setsuko Yamada, Dancer: Susan Elliott



Feather, Choreographer: Toru Shimazaki, Dancers: Graham McKelvie and James Robertson



Me and I, Choreographer: Kim Itoh, Dancer: Dominique Porte

Canada/Japan Dance Project Organizing Committee's CJ8, May-June 2001. Photos: Yota Kataoka

Monochrome Circus

Monochrome Circus European Tour Vol. 3 *Shukakusai* (Harvest Festival) 2001

October 2 – November 7, 2001

Kaunas, Berlin, Cottbus, Auvers sur Oise, Paris, Enghien-les-Bains, Ivery sur Seine, Mery-sur-Oise, Montmorency, Montpellier (Vitautes Magnus University Hall, tanz fabrik, Cottbus City Hall, College d'Aubigny, Enghien-les-Bains Station Hall, Ecole Duperre, Embassy of Japan Cultural and Information Service Center, La Pallade Studio-Laboratoire, Le Grand Mail-Quartier de la Paillade, La Place de la Comedi, plus private residences)

¥1,500,000

nest

nest European Tour

October 12 – October 17, 2001

Helsinki, Berlin (Kiasma Theatre, Kunst-Werke)

¥1,500,000 Studio Rental: 41 days

Nibroll

Nibroll France and USA Tour

July 10 – August 5, 2001

Avignon, Portland, San Francisco (Theatre Funambule, Portland State University, Theatre Artaud)

¥1,500,000 Studio Rental: 9 days

Performance Theatre Mizu-To-Abura

Mizu-To-Abura European Tour

July 12 – August 13, 2001

Moncalieri, Brighton, Edinburgh (Theatropolis Theatre, Komedia Theatre, Komedia St Stephens)

¥1,500,000 Studio Rental: 20 days

■ showcase projects

Executive Committee of JAPAN NOW JAPAN NOW

October 15 – October 30, 2001

Bern, Gdansk (Rethalle10, Wybreze Theater)

¥2,000,000

Tokyo Contemporary Dance 2001

Tokyo Contemporary Dance 2001

October 16 – October 28, 2001

Rome, Cairo, Paris (Teatro Greco, Opera House, Maison de la Culture du Japon à Paris)

¥1,000,000

■ international collaboration projects

Canada/Japan Dance Project Organizing Committee

CJ8 Canada/Japan Dance Partnership

May 31 – June 7, 2001

Tokyo, Kyoto, Nagoya (Spiral Hall, Kyoto Art Center, Aichi Arts Center)

¥2,000,000

Kanagawa Arts Foundation

Contemporary Arts Series "Philippe Decoufle Workshop" ~ dance today7 by ASK ~

September 14, 2001 – March 3, 2002

Kanagawa (Kanagawa Dome Theatre, Landmark Hall, Kanagawa Dome Theatre)

¥1,000,000

ko & Edge

Ko Murobushi Dance Performance Edge

October 24 – October 25, 2001

Tokyo (Theatre Tram)

¥2,000,000

Nippon International Performance Art Festival Executive Committee

The 6th Asian Performance Art Series

July 23 – August 7, 2001

Kyoto, Nagoya, Tokyo, Nagano (Art Complex 1928, Mutyu Syokudo Art Space, ZA HALL, Iizuna Cottage, Neon Hall)

¥1,500,000

Pappa TARAHUMARA

Pappa TARAHUMARA WD Project 2001

September 1 – December 11, 2001

Tokyo, San Francisco (Morishita Studio, Yerba Buena Center for the Arts Theater, Setagaya Public Theatre)

Studio Rental: 30 days

SAL VANILLA

survival/colony Japanese-German Co-Production and Performance

November 22 – December 3, 2001

Berlin (Tacheles Theater)

¥1,000,000

Seinendan/Agora Planning LTD.

Nœuds de Neige (Snow Clusters): Paesine 1

March 7 – March 16, 2002

Revest-les-Eaux (La Maison des Comoni au Revest-les-Eaux)

¥2,000,000



Kawamura (left) with Dr. Peter Eckersall and Rosemary Hinde during the interval of the reading session in Adelaide, April 2001.



Takeshi Kawamura
Photo:
Naomi Kawakami

主宰：川村 毅(劇作家・演出家・俳優)
制作：平井佳子

artistic director: Takeshi Kawamura (playwright, director, and actor)
producer: Yoshiko Hirai
t_factory@syd.odn.ne.jp
http://www1.odn.ne.jp/info/t_factory/

■ 継続助成対象期間

2001年度から2003年度まで

■ 2001年度の助成内容

年度：2001年3月1日—2002年2月28日

金額：3,000,000円

スタジオ提供(2001年6月から2002年5月までの期間)：30日間

■ 2001年度の主な国際交流活動

【『The Lost Babylon』プロジェクト】

4月：アデレードのシフティング・ポイント・シアターの芸術監督および演出家のラッセル・フュースターを日本に招き、東京でワークショップを開催、アデレードでフュースター演出によるテキストレジー作業とリーディング公演を実施。現地で稽古に川村毅も参加、英訳台本を改訂。

【『ハムレットクローン』プロジェクト】

7月：メルボルン大学のピーター・エッカサル氏を中心にテキストレジー作業、英訳を完成、川村毅による学生とのワークショップとレクチャーを開催。

11月：改訂版作成作業、英訳決定稿の完成

2月：仏訳完成

【アジア文化コラボレーションプロジェクト】

12月：川村毅、マレーシアとシンガポールを訪問、各国演劇関係者と交流

■ Grant-receiving term

From 2001 to 2003

■ Details on support during fiscal year 2001

Fiscal year: March 1, 2001 – February 28, 2002

Grant: ¥3,000,000

Studio Rental: (between June 2001 till May 2002): 30 days

■ Major activities during fiscal year 2001

【The Lost Babylon Project】

April: Workshop in Tokyo with Russell Fewster, artistic director of the Shifting Point Theatre of Adelaide; script editing and reading sessions in Adelaide under Fewster's direction; Kawamura visits Adelaide and joins the rehearsals and the revising of the English version of his play.

【Hamletclone Project】

July: Editing and completion of the English translation of the play with Dr. Peter Eckersall of the University of Melbourne; workshop and lecture by Kawamura

November: Work on the revised version of the play and completion of the definitive English version

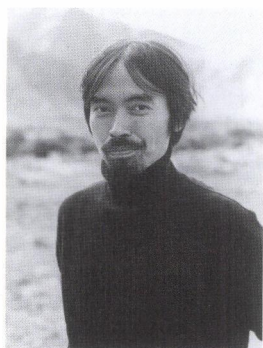
February: Completion of the French translation of the play

【Asian Cultural Collaboration Project】

December: Kawamura visits Malaysia and Singapore and meets theater artists in both countries



Miyagi and members of Ku Na'uka with Giancarlo Nanni of Teatro Vascello at the curtain call of *Medea* in Rome, June 2001. Photo: Tatsuo Rokudo



Satoshi Miyagi
 Photo: Tatsuo Rokudo

主宰: 宮城 聡 (演出家)
 制作: 久我晴子

artistic director: Satoshi Miyagi (director)
 producer: Haruko Kuga
 npo@kunauka.or.jp
 http://www.kunauka.or.jp/

■ 継続助成対象期間

2001年度から2003年度まで

■ 2001年度の助成内容

年度: 2001年1月1日 - 12月31日

金額: 3,000,000円

スタジオ提供 (2001年6月から2002年5月までの期間): 41日間

■ 2001年度の主な国際交流活動

【『王女メディア』プロジェクト】

6月 - 7月: 韓国 (水原)、ロシア (モスクワ)、モロッコ (ラバト)、イタリア (ローマ)、フランス (グルノーブル) ツアーを実施。モスクワでは京劇ワークショップにも参加。

1月: 2002年11月に行われる『王女メディア』フランスツアーの劇場事前視察としてパリ、ナント、ロリアン、ブリティニー・スール・オージュ、ストラスブルを訪問

■ Grant-receiving term

From 2001 to 2003

■ Details on support during fiscal year 2001

Fiscal year: January 1 - December 31, 2001

Grant: ¥3,000,000

Studio Rental: (between June 2001 till May 2002): 41 days

■ Major activities during fiscal year 2001
 [Medea Project]

June-July: *Medea* tour of Suwon, Korea; Moscow, Russia; Rabat, Morocco; Rome, Italy; Grenoble, France; company members attend Chinese opera workshop in Moscow

January: Inspection tour of theaters in Paris, Nantes, Lorient, Brétigny-sur-Orge, and Strasbourg in prior to the company's *Medea* tour in November 2002

芸術交流活動【非公募】

助成対象5件/ 助成総額15,840,000円

本プログラムでは、海外の非営利団体との継続的なパートナーシップによる日本文化の紹介事業や文化交流活動を支援する。

ニューヨークのジャパン・ソサエティーでは1998年度より、日本の現代演劇をアメリカに紹介する5カ年プロジェクト「ジャパニーズ・シアター・ナウ」を行っている。4回目となる2001年度は、10月上旬に清水信臣率いる劇団解体社を迎え、最新作『バイバイ/未開へ』の上演とニューヨーク市立大学大学院でのワークショップが行われた。9月11日の同時多発テロ事件の直後ということもあり、また言語の媒介なしに直接的に訴えかける作風と、各回上演前に内野儀(東京大学大学院総合文化研究科助教授)による作品解説が手伝って、終演後のトークセッションでは現代社会の身体性についての議論が多く、観客を交えて熱心に交わされた。公演前にはニューヨーク・タイムズ紙などで紹介記事が掲載されてチケットが売り切れたが、公演終了後にも多くの論評が発表された。

2001年度に開始されたベイツ・ダンスフェスティバルの舞踊家派遣事業は、セゾン文化財団とアジア・カルチュラル・カウンシル等の共催による国際交流事業「トライアングル・アーツ・プログラム'97」に端を発した3年継続の事業である。アメリカのメイン州レイストンにあるベイツ・カレッジで滞在型ワークショップが数多く開催される「ベイツ・ダンスフェスティバル」には、アメリカ内外から約60名の舞踊家が招待され、ワークショップ受講のほか教授、創作、発表、交流事業などの機会が与えられる。2年度目にあたる今回は、レニ・バスソの主宰者である振付家・ダンサーの北村明子に参加し、7月下旬から8月上旬まで約3週間にわたってワークショップを行い、ソロ作品の創作・発表に携わった(セゾン文化財団ニューズレター『viewpoint』2002年2月28日号に北村明子による報告を掲載)。

日本の文化や芸術をイギリスに紹介するプログラムとして、ロイヤル・アカデミー・オブ・アーツ日本名誉委員会とロイヤル・アカデミー・オブ・アーツ(RA)がロンドンで年1回共催する「日本文化の夕べ」は本年度で7回目を迎えた。RAで開催されるボストン美術館所蔵の初期浮世絵展に因み、当初は日本から版画家を招いての実演会を2001年10月に予定していたが、アメリカでの同時多発テロ以降の国際情勢により一旦中止となった。その後新たに企画された「日本文化の夕べ」では、大英博物館の日本古美術担

当副管理局長で浮世絵に詳しいティモシー・C. クラークによるレクチャーと特別内覧会が2002年2月に行われた。展覧会の評判の高さとイギリスにおける日本文化紹介年Japan 2001の公式イベントということもあり多数の参加者が集まり、専門家以外にも充分楽しめる内容のレクチャーは好評を博した。

ニューヨークに本部を置くアジア・カルチュラル・カウンシル(ACC)が日米の芸術家、学者、専門家、機関のために行っている相互的フェローシッププログラム「日米芸術家交流プログラム」に対してセゾン文化財団は1989年度より毎年支援を行っている。当財団からの2001年度の助成金は、同交流プログラムの2002年度の助成対象に選ばれた日本の芸術家や専門家の訪米費用に充当される。

ニュー・イングランド・ファンデーション・フォー・ジ・アーツが中心となって行っているトライアングル・アーツ・プロジェクト(TAP)準備年として、2001年夏にベイツ・ダンスフェスティバルにてミーティングが実施された。今後は1994年と1997年の過去2回のTAPでは深く追究できなかった制作者の活動にも重点をおき、次回TAPIIIでは本プロジェクトのこれまでの影響力についてドキュメンタリーの形でまとめ、将来の計画に向けて検証する機会として位置づけることが決定した。

Asian Cultural Council
日米芸術家交流プログラム
2001年1月1日-12月31日
アメリカ、日本
7,000,000円

Japan Society, Inc.
ジャパニーズ・シアター・ナウ
2001年10月4日-10月6日
ニューヨーク(ジャパン・ソサエティー、ニューヨーク市立大学大学院)
3,000,000円

The New England Foundation for the Arts
トライアングル・アーツ・プロジェクト(TAP) 準備年
2001年1月1日-12月31日
レイストン(ベイツ・カレッジ)
2,200,000円

Bates Dance Festival
ベイツ・ダンスフェスティバル舞踊家派遣事業
2001年7月28日-8月19日
レイストン(ベイツ・カレッジ)
1,000,000円

ロイヤル・アカデミー・オブ・アーツ日本名誉委員会

日本文化の夕べ

2002年2月7日
ロンドン(ロイヤル・アカデミー・オブ・アーツ)
2,640,000円

Artistic Exchange Project Grant Program
[designated fund program]
5 Grantees/ Total appropriations: ¥ 15,840,000

This program awards grants to artistic activities conducted by non-profit organizations outside of Japan with a continuing relationship with the Saison Foundation, and to projects intended to introduce Japanese culture to other nations.

The fourth year of Japanese Theater NOW, the Japan Society's five-year series to present Japanese contemporary theater to North American audiences, featured Gekidan Kaitaisha, the theater company led by Shinjin Shimizu. The company visited New York from late September to early October 2001, during which they performed their latest work entitled *Bye-Bye: The New Primitive* at the Japan Society and held a workshop at The City University of New York Graduate Center. The post-performance discussions including members of the audience on Shimizu's philosophy of the "disappearance of significance of the body in modern society" were remarkably intense perhaps because the tour took place soon after the September 11 terrorist attacks, and that the use of the spoken word is extremely limited in the company's work which makes it possible for the audience to "feel" it without any language barrier, plus the fact that Tadashi Uchino, Associate Professor of the University of Tokyo's Graduate School of Arts and Sciences, gave an introductory lecture on the work before each performance. An advance article in *The New York Times* on the company contributed to the Society's efforts in selling out all three performances in New York and a number of reviews appeared after the tour.

The Bates Dance Festival's international visiting artists program known as Different Voices began a three-year program in 2001 that invites Japanese dance artists to the annual festival in Maine in extension of the 1997 Triangle Arts Program, a cultural exchange program in dance that was initiated by a number of organizations including the Asian Cultural Council and the Saison Foundation. Choreographer and dancer Akiko Kitamura, artistic director of the dance company Leni-Basso, was invited to participate in the second year of the program. During her three-week residency at Bates College, Kitamura held workshops while working on a new solo piece that she performed at the end of her stay.

An annual program organized by the Japanese Committee of Honour of the

Royal Academy of Arts and the Royal Academy of Arts, London, to introduce Japanese culture and art to British audiences called Japanese Cultural Evening was held for the seventh time in 2001. A demonstration event by a Japanese woodblock artist was scheduled in October 2001 in connection with an exhibition of ukiyo-e woodblock prints from the collection of the Museum of Fine Arts, Boston, which was being held at the Royal Academy as part of the Japan 2001 festival in the U.K. The event, however, was cancelled due to the worldwide situation at the time following the terrorist attacks in the U.S. in the previous month. Plans for the event were revised and consequently a lecture on ukiyo-e by one of the curators of the exhibition, Timothy C. Clark, Assistant Keeper of the British Museum's Department of Japanese Antiquities, was held in February 2002.

The Saison Foundation has supported the Japan-United States Arts Program of the Asian Cultural Council (ACC) each year since 1989. The grant from the Foundation made in 2001 will be appropriated to the travel expenses of Japanese artists and specialists who will be awarded opportunities to visit the U.S. as grant recipients of the ACC's interactive fellowship program in 2002.

During the Bates Dance Festival in the summer of 2001, the New England Foundation for the Arts held a preparatory meeting on the next Triangle Arts Project (TAP), an ongoing series of programs designed for the sharing of information and the enhancement of understanding among U.S., Indonesian, and Japanese choreographers and enablers (i.e., producers or arts managers). It was agreed at the meeting in Maine that the upcoming programs should highlight issues that were not explored in depth during the first and second programs in 1994 and 1997 respectively, such as the roles of the enablers, and that the next program should focus on the evaluation and the documentation of the "ripple effects" of TAP that will provide feedback and reference for future programs.

Asian Cultural Council
ACC Japan-United States Arts Program Fellowships
January 1 – December 31, 2001
U.S., Japan
¥7,000,000

Bates Dance Festival
Different Voices
July 28 – August 19, 2001
Lewiston (Bates College)
¥1,000,000

Japan Society, Inc.
Japanese Theater Now — Year Four: Gekidan Kaitaisha
October 4 – October 6, 2001
New York (Japan Society, The City University of New York Graduate Center)

¥3,000,000

The Japanese Committee of Honour of the Royal Academy
Japanese Cultural Evening
February 7, 2002
London (Royal Academy of Arts)
¥2,640,000

The New England Foundation for the Arts
Triangle Arts Project (TAP) Planning Phase
January 1 – December 31, 2001
Lewiston (Bates College)
¥2,200,000

特別助成(国際交流)【非公募】
助成対象1件/ 助成総額500,000円

2001年度の本プログラムでは、日本現代音楽協会が主催する「ISCM世界音楽の日々2001横浜大会—日本現代音楽協会新世紀音楽祭—」に助成を行った。日本で初めて開催された同音楽祭は8日間に23公演のほか、ワークショップ等4つの周辺イベントを盛り込んだ大規模なものとなり、海外から約130名の作曲家や音楽関係者が参加した。現代音楽における国際交流に貢献しただけでなく、日本現代音楽界の層の厚さを世界にアピールする機会となった。

日本現代音楽協会
ISCM世界音楽の日々2001横浜大会—日本現代音楽協会新世紀音楽祭—
2001年10月3日—10月10日
神奈川(横浜みなとみらいホール)
500,000円

Special Project Support Grant Program (international)
[designated fund program]
1 Grantee/ Total appropriation: ¥ 500,000

A grant was awarded to the Japan Society for Contemporary Music, which played host to an international contemporary music festival called "ISCM World Music Days 2001 in Yokohama — JSCM New Millennium Festival," that was held for the first time in Japan. About 130 composers, musicians, and specialists took part in the festival that included twenty-three concerts and four related events.

Japan Society for Contemporary Music
ISCM World Music Days 2001 in Yokohama — JSCM New Millennium Festival
October 3 – October 10, 2001
Kanagawa (Yokohama Minato Mirai Hall)
¥500,000

■森下スタジオのその他の利用者
(2001年6月1日—2002年5月31日)

利用団体名	利用日数
aki.nagatani & danscapes	3
アムアーツ	1
アンクリエイティブ	12
イデビアン・クルー	26
インプロジャム!	1
Compagnie L.S.D.S.	4
鴻上演劇研究所/(株)サードステージ	3
(株)シルバーライニング	26
ジンジャントロプスボイセイ	3
ダンスカンパニー カレイドスコープ	8
丹野賢一/NUMBERING MACHINE	7
(株)ティーファクトリー	27
パパ・タラフマラ	38
パフォーマンスシアター 水と油	20
モーリン・フレミング	3
リハビリ4	3
燐光群/(有)グッドフェローズ	5

■Other users of Morishita Studio
(June 1, 2001 – May 31, 2002)

	number of days
aki.nagatani & danscapes	3
Ame Arts, Inc.	1
An Creative	12
Compagnie L.S.D.S.	4
Danse Compagnie Kaleidoscope	8
Maureen Fleming	3
IDEVIAN CREW	26
impro-jam!	1
KOKAMI/THIRDSTAGE.inc	3
PAPA TARAHUMARA	38
Performance Theatre Mizu-To-Abura	20
rehabili4	3
Silver Lining	26
T factory	27
TANNO KEN'ICHI / NUMBERING MACHINE	7
Theatre Company RINKOGUN /	
GOOD FELLOWS, Inc.	5
theatre company Zinjanthropusboisei	3

自主製作事業・共催事業

(セゾンシアタープログラム)

**SPONSORSHIP &
CO-SPONSORSHIP PROGRAMS**
(Saison Theater Program)

自主製作事業 Sponsorship Program

制作実践セミナー2001 法律編

舞台芸術分野の制作者を対象に、現場で役立つ実践的なノウハウおよびスキルを提供するセミナーを不定期で開催している。2001年度は昨年実施して好評だった「著作権」および「契約」に関するセミナーを再実施。

■「舞台作品・上演に関わる著作権」

期日: 2001年5月17日～6月14日(全5回)
会場: 森下スタジオ
講師: 福井健策(弁護士)
ナビゲーター: 奥山緑(舞台制作)
ゲスト講師: 高萩宏(世田谷パブリックシアター)

■「舞台芸術と契約」

期日: 2001年6月21日～7月19日(全5回)
会場: 森下スタジオ
講師: 福井健策(弁護士)
ナビゲーター: 奥山緑(舞台制作)
ゲスト講師: 宮田慶子(劇団青年座)



A lecture on legal affairs by Kensaku Fukui during the Arts Administration Seminar Series at Morishita Studio. Photo by Koichiro Saito

ニュースレター「viewpoint」の刊行

セゾン文化財団のニュースレター『viewpoint』では、研究助成や海外留学、レジデンシーの成果など、当財団の助成・共催事業に関連した論考、レポートを幅広く掲載している。発行部数は毎号1000部。芸術団体、自治体、助成財団、マスコミ、大学、シンクタンク、研究者などに無料配布している。2001年2月発行の第17号から2002年2月発行の第20号まで米国の文化政策の潮流について報告。

第18号(2001年5月発行)

- 広げすぎず、狭めすぎず——第3回アジア女性演劇会議について
内野儀(東京大学大学院総合文化研究科助教授)
- 文化政策とビュー・チャリタブル・トラストについて
マリアン・A.ゴドフリー(ビュー・チャリタブル・トラスト文化事業部ディレクター) + スティーブン・K. ユライス(同プログラム・オフィサー)
- 異文化紹介のメカニズム——英国ヴィジティング・アーツの理念と活動
テリー・サンデル(ヴィジティング・アーツ ディレクター)
- 森下スタジオにおける活動報告
◎2001JCDN発足シンポジウム「全国のダンス環境創りに向けて」

第19号(2001年9月発行)

- to be or not to be——舞台芸術団体に非営利法人格を適用することの妥当性と必要性について
塩谷陽子(アーキペラゴ社代表)
- 研究者から見た米国の文化政策
マーガレット・J. ヴィンミアスキー(オハイオ州立大学教授)
- 舞台の上でみえを切ったり、喚いたり——CJ8: カナダ/日本ダンスパートナーシップについて
コリン・マッキンタイヤ(プロデューサー、ツアーオーガナイザー、フェスティバルディレクター)
- 森下スタジオにおける活動報告
◎制作実践セミナー2001 法律編 舞台制作のための基礎知識「著作権」と「契約」
◎劇団解体社 セゾンシアタープログラム『パイパイ/未開へ』公演・写真展

第20号(2002年2月発行)

- 9月11日以降の米文化政策の展望
ジェームズ・アレン・スミス(歴史学者、J. ポール・ゲッティ・トラスト財団シニアアドバイザー)
- 劇団解体社ワールドツアーを終えて
清水信臣(演出家、劇団解体社主宰)
- アメリカ—物語のダンスフェスティバルのあとに
北村明子(振付家、ダンサー、レニ・バスン主宰)
- 森下スタジオにおける活動報告
◎セゾンシアタープログラム『Dreamtime in Morishita Studios』
◎セゾンシアタープログラム パークタワー・ネクストダンス・フェスティバル・プレイベント『ネクスト・ネクスト2—次の次のダンスは森下から』

Arts Administration Seminar Series 2001: Legal Affairs

Designed for performing art producers and managers, the Saison Foundation's Arts Administration Seminar Series offer opportunities to study practical knowledge and skills on arts administration. In 2001, we organized another season of the highly popular seminars on legal affairs featuring copyright and contract issues by Mr. Kensaku Fukui, attorney-at-law, in order to meet the demands of those who were not able to attend the seminars in 2000.

■ Legal Affairs Seminars

Seminar A: Copyrights on Performing Art Works and Staging

Period: May 17 - June 14, 2001 (five classes in total)

Seminar B: Legal Contracts and Performing Arts
Period: June 21 - July 19, 2001 (five classes in total)

Venue: Morishita Studio

Lecturer: Kensaku Fukui, Attorney-at-Law

Navigator: Midori Okuyama, Producer

Guest Lecturers: Hiroshi Takahagi (Setagaya Public Theatre), Keiko Miyata (Gekidan Seinenza)

Publication of viewpoint

The Saison Foundation's newsletter *viewpoint* carries a wide range of reports and essays, including the results of the Foundation's research grants and the outcome of projects supported by the Foundation. One thousand copies are published for each issue, which are circulated free of charge to art organizations, local governments, foundations, the press, universities, think tanks, researchers, etc. The newsletter featured essays on U.S. culture policy by specialists working in that particular field from February 2001 (Issue No. 17) to February 2002 (Issue No. 20). The following list is that of issues published during April 2001 to March 2002.

Issue No. 18 (May 2001)

- *Not Too Wide, Not Too Narrow — The Third Conference for Asian Women and Theatre* by Tadashi Uchino, Associate Professor, Graduate School of Arts and Sciences, the University of Tokyo
- *Culture Policy and the Pew Charitable Trusts* by Marian A. Godfrey, Director, and Stephen K. Urice, Officer, Culture Program, The Pew Charitable Trusts
- *The Mechanism of Intercultural Communication — The Philosophy and Activities of Visiting Arts of the UK* by Terry Sandell, OBE FRSA, Director, Visiting Arts
- scenes from Morishita Studio: report on the Japan Contemporary Dance Network's inauguration symposium

Issue No. 19 (September 2001)

- *to be or not to be — An Essay on the Validity and Necessity of Applying Not-for-Profit Status to Performing Arts Organizations*

- by Yoko Shioya, Consultant on Cultural Affairs
- *A Research Perspective on Cultural Policy in the United States*
by Margaret J. Wyszomirski, Ph.D., Professor and Director, Arts Policy and Administration Program, The Ohio State University
 - *CJ8: the Struts and Frets of its Hour upon the Stage*
by Colin McIntyre, Producer, Tour Organizer, and Festival Director
 - scenes from Morishita Studio: reports on the legal affairs seminars, and on Gekidan Kaitaisha's Saison Theater Program performance and photo exhibition of *Bye-Bye: The New Primitive*

Issue No. 20 (February 2002)

- *After 9/11: Perspectives on U.S. Cultural Policy*
by James Allen Smith, Historian and Senior Adviser to the President of the J. Paul Getty Trust
- *On Completing Gekidan Kaitaisha's World Tour*
by Shinjin Shimizu, Artistic Director of Gekidan Kaitaisha
- *America — Recollections of a Storybook-like Dance Festival*
by Akiko Kitamura, Choreographer, Dancer, and Artistic Director of Leni-Basso
- scenes from Morishita Studio: reports on the Park Tower Next Dance Festival pre-event, Next Next 2

共催事業(セゾンシアタープログラム) Co-Sponsorship Program (Saison Theater Program)

森下スタジオ若手舞踊家育成プログラム/パークタワー・ネクストダンス・フェスティバル

東京ガス都市開発(株)パークタワー・アートプログラムが1996年から開催している若手舞踊家による新作公演フェスティバルを2000年度に引き続き共催。セゾン文化財団は同フェスティバルに参加する振付家に作品創作のための稽古場として森下スタジオを提供し、さらにその創作過程の一般公開と振付家と評論家との対談を交えたイベント「Just Before the Performance」を実施。また関連企画として、独自の舞踊家育成プログラムを実施している小スペースのSTスポット(横浜)、セッションハウス(東京)、トリイホール(大阪)のプロデューサーの協力を得て、次世

代を担う振付家の育成と紹介を目的としたダンスショーケース「ネクスト・ネクスト2」を開催した。

■ネクスト・ネクスト2(若手による舞踊小作品集)

開催日: 2001年12月8日

会場: 森下スタジオCスタジオ

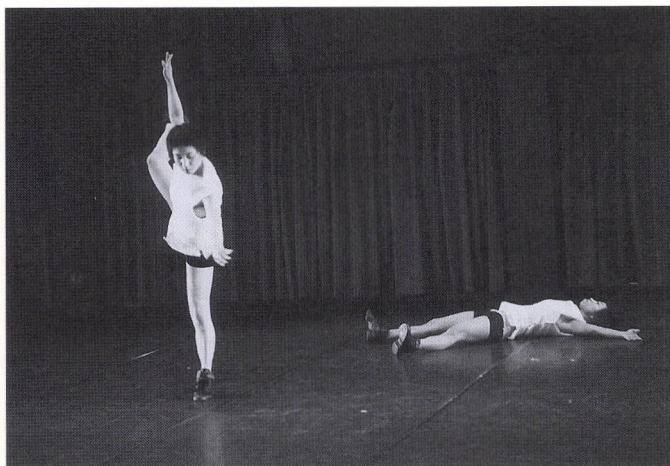
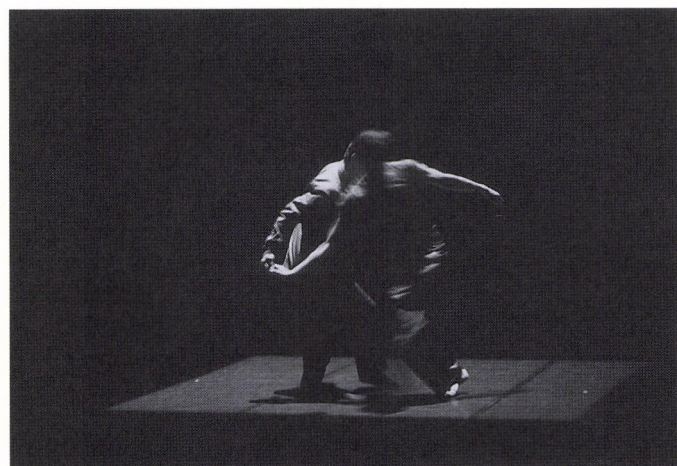
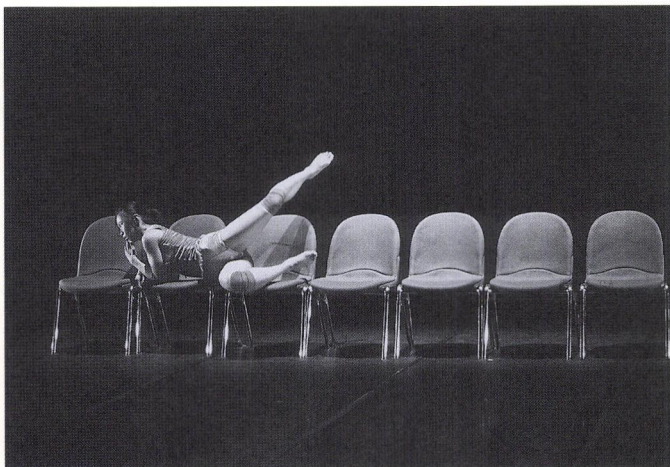
振付: 天野由起子、北村成美、坂本公成、山田珠美

■Just Before the Performance(稽古場見学)

期間: 2002年1月25日、1月31日、2月1日

会場: 森下スタジオCスタジオ

出演: 岩淵多喜子(Dance Theatre LUDENS 主宰)×松澤慶信(舞踊美学)、矢内原美邦(ニプロール主宰)×桜井圭介(ダンス批評)、石川ふくろう(PROJECT FUKUROW 主宰)×石井達朗(舞踊評



(Top: from left to right) Yukiko Amano, Shigemi Kitamura, (Bottom: from left to right) Kosei Sakamoto, and Tamami Yamada at the Next Next 2 dance event, Morishita Studio, December 2001. Photos: Gentaro Todaka

論家)

■第6回パークタワー・ネクストダンス・フェスティバル

期間: 2002年2月20日-2月28日

会場: パークタワーホール

出演: 岩淵多喜子/Dance Theatre LUDENS、
矢内原美邦/ニブロール、石川ふくろう/
PROJECT FUKUROW

国際舞踊夏期大学及びサテライト・プログラム
インターナショナル・サマー・スクール オブ ダンス
イン仙台、浜松、名古屋、松山

2000年度より開始された国際舞踊夏期大学との共催。国内外から優秀な講師を招聘し、数多くの人材を輩出していることで定評のある夏期集中舞踊ワークショップを5つの都市で開催。東京でのプログラムでは森下スタジオを全館使用。

期間: 2001年8月5日-25日

会場: 8月6日-17日 森下スタジオ、牧野リフレッシュ教室(東京)

8月18日-19日 エルパーク141(宮城)

8月18日-19日 浜松シティパレ(静岡)

8月21日-22日 愛知芸術文化センター(愛知)

8月24日-25日 Hiroko Dancenter(愛媛)

講師: バーバラ・グラベル、ニナ・マーティン、レイ
チェル・マーリィ、ジェニファー・モンソン、
ジェームズ・サットン、クレグ・パターソン、
中村千秋、笠井敦

世田谷パブリックシアター舞台技術者養成講座

2000年度より開始された(財)世田谷区コミュニティ振興交流財団との共催事業。世田谷パブリックシアター舞台技術者養成講座のうち、特

にプロの技術者の表現活動の技術向上を目的とする人材養成講座を開催。

期間: 2001年7月8日-2002年2月17日

会場: 世田谷パブリックシアター、シアタートラム(東京)

Dreamtime in Morishita Studios

戦争を題材としたクオ・パオクン作『スピリッツ・プレイ』をテキストに使い、シアターワークス(シンガポール)の演出家オン・ケンセンの演出のもと、シンガポールと日本のアーティスト——美術、音楽、パフォーマンス、演劇——が森下スタジオで約1ヶ月にわたってレジデンスを行い、ワークショップを繰り返しながら作品を立ち上げる共同創造事業。期間中ショウイングを計6日間実施した。

期間: 2001年11月6日-12月2日

会場: 森下スタジオ(東京)

原作: クオ・パオクン(郭宝崑)作『The Spirits Play(霊戯)』

史料提供:

シンガポール国立公文書館 口述歴史センター

参考資料:

桐谷夏子訳『霊戯——スピリッツプレイ』(郭宝崑戯曲集『花降る日へ』[れんが書房新社刊]収録)

構想・演出:

オン・ケンセン(シアターワークス芸術監督)

参加アーティスト:

[シンガポール]

シアターワークス(演劇/パフォーマンス)

キャスト: ジレマイヤ・チョイ、ジャニス・

コー、ロク・メンチュエ、ロー・キーホン

[日本]

group A: グラインダーマン(パフォーマンス)、山中透(音楽・DJ)

group B: 羊屋白玉(演劇/指輪ホテル主宰)+指輪ホテルメンバー、西山美なコ(美術)

作品公開:

group Aとの共同作品 11月16日-18日

group Bとの共同作品 11月30日-12月2日

H・アール・カオスによる音楽家SUGIZOとの共同公演『垂直の夢』

H・アール・カオス(助成対象団体)とロックバンドLUNA SEAの元メンバーSUGIZOによるコラボレーションプロジェクトとして『垂直の夢』(構成・演出・振付: 大島早紀子/音楽監督: SUGIZO)を上演。

期間: 2001年6月12日-16日

会場: ル テアトル銀座(東京)

劇団解体社によるヨーロッパ・アメリカツアー 日本
プレ公演『バイバイ/未開へ』

様々なジャンルを取り込み、緊張感と苛烈な身体表現で類を見ない舞台を提供し続けてきた劇団解体社(助成対象団体)が2001年度の欧米ツアーを前にこれまでの活動を集大成した作品『バイバイ/未開へ』(作・構成・演出: 清水信臣)の公演、および写真展とトークセッションを併せて森下スタジオで開催。

期間: 2001年6月15日-24日

会場: 森下スタジオ(東京)



Technique class by choreographer/dancer Kraig Patterson (front left) at the International Summer School of Dance, Morishita Studio, August 2001.
Photo: Koichiro Saito



Group A version of Dreamtime at Morishita Studios, performed by the members of TheatreWorks and Grinder-Man with DJ/musician Toru Yamanaka.
Photo: Gentaro Todaka

Dance Artist Development Program at Morishita Studio/Park Tower Next Dance Festival

As in the year 2000, the Saison Foundation co-sponsored the Next Dance Festival again with Tokyo Gas Urban Development Co., Ltd., which operates the Park Tower Hall in Shinjuku, Tokyo. The company has organized the dance festival since 1996 in order to provide opportunities to young dance artists to create and show new work. The Saison Foundation offered the rehearsal facilities at Morishita Studio to the artists, and also held a series of work-in-progress showing and discussion events entitled *Just Before the Performance* at the studio in prior to the dance festival, in which audiences could observe the creative process of each participating choreographer and join the discussions between the choreographers and critics. An additional event for even younger artists entitled *Next Next 2* also took place at Morishita in cooperation with the producers of three performing spaces that administer development programs of their own, namely, Session House of Tokyo, ST Spot of Yokohama, and Torii Hall of Osaka.

■ Next Next 2 (an anthology of short dance pieces by young choreographers)

Date: December 8, 2001

Venue: Studio C at Morishita Studio

Participating artists: Yukiko Amano, Shigemi Kitamura, Kosei Sakamoto, and Tamami Yamada

■ Just Before the Performance (a series of work-in-progress showings and discussions held in prior to the Next Dance Festival)

Dates: January 25, January 31, and February 1, 2002

Venue: Studio C at Morishita Studio

Participating artists and critics: Takiko Iwabuchi (artistic director of Dance Theatre LUDENS) and

Yoshinobu Matsuzawa (dance aesthetics critic), Mikuni Yanaiharu (artistic director of Nibroll) and Keisuke Sakurai (dance critic), Fukurow Ishikawa (artistic director of Project Fukurow) and Tatsuro Ishii (dance critic)

■ The Sixth Park Tower Next Dance Festival

Dates: February 20 – 28, 2002

Venue: Park Tower Hall

Participating artists: Takiko Iwabuchi/Dance Theatre LUDENS, Mikuni Yanaiharu/Nibroll, Fukurow Ishikawa/Project Fukurow

International Summer School of Dance and its satellite programs in Sendai, Hamamatsu, Nagoya, and Matsuyama

A co-sponsorship program with the International Summer School of Dance, which is an organization that has invited first rate instructors from Japan and abroad to conduct intensive workshops that have produced many artists over the years. In the case of the program in Tokyo, the Saison Foundation offered all of the facilities at Morishita Studio to the School.

Dates: August 5 – 25, 2001

Venues: August 6 – 17 / Morishita Studio, Makino Refresh School (Tokyo)
August 18 – 19 / L-Park Sendai 141 (Sendai, Miyagi)
August 18 – 19 / Hamamatsu City Ballet (Hamamatsu, Shizuoka)
August 21 – 22 / Aichi Art Center (Nagoya, Aichi)
August 24 – 25 / Hiroko Dancenter (Matsuyama, Ehime)

Instructors: Barbara Grubel, Akira Kasai, Nina Martin, Rachel Murray, Jennifer Monson, Chiaki Nakamura, Kraig Patterson, and James Sutton

Setagaya Public Theatre Stage Technicians' Courses

A series of courses for stage technicians was co-sponsored with the Setagaya Community Foundation, which operates the Setagaya Public Theatre and Theatre Tram in Tokyo. Students of the courses were given opportunities to work as trainees on certain productions from rehearsals to the actual performance, and to attend lectures given by professionals.

Period: July 8, 2001 – February 17, 2002

Venue: Setagaya Public Theatre and Theatre Tram (Tokyo)

Dreamtime in Morishita Studios

This was a collaboration project on the theme of war between young Singaporean and Japanese artists. *Dreamtime in Morishita Studios* was conceived and directed by Ong Keng Sen, artistic director of TheatreWorks (Singapore) Ltd., inspired by Kuo Pao Kun's *The Spirits Play* with fragments of the text from the original script, and by interviews with war survivors from the Oral History Centre of the National Archives of

Singapore. The project took place in the form of a month-long residency of workshops, discussions, and two sets of showings at Morishita Studio.

Dates: (Residency) November 6 – December 2, 2001

Venue: Morishita Studio

Inspired by: *The Spirits Play* by Kuo Pao Kun

Historical reference:

Interviews with war survivors from the Oral History Centre of the National Archives of Singapore

Related reference:

Japanese translation of *The Spirits Play*, translated by Natsuko Kiritani, compiled in an anthology of Kuo Pao Kun's works entitled *When Petals Fall Like Snow*, published by Renga Shobo Shinsha, Tokyo, 2000

Conceived and directed by:

Ong Keng Sen, Artistic Director, TheatreWorks (Singapore) Ltd.

Participating Artists:

TheatreWorks Performers: Jeremiah Choy, Janice Koh, Lok Meng Chue, Low Kee Hong
Group A: Grinder-Man (performance group), Toru Yamanaka (DJ/musician)
Group B: Shirotama Hitsujiya (playwright and director) plus performers from her company Yubiwa Hotel, Minako Nishiyama (visual artist)

Showings with Group A:

November 16 – November 18

Showings with Group B:

November 30 – December 2

H Art Chaos/SUGIZO Collaboration Project: Suichoku no Yume (Le Songe Vertical)

A dance collaboration project between H Art Chaos (Saison Foundation grant recipient) and guitarist/composer SUGIZO, formally of the Japanese rock band LUNA SEA. *Suichoku no Yume (Le Songe Vertical)* was created, directed, and choreographed by Sakiko Oshima, artistic director of the dance company. Music composed by SUGIZO.

Period: June 12 – 16, 2001

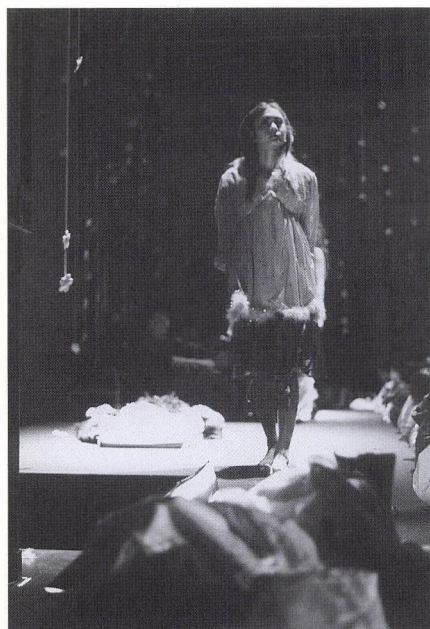
Venue: Le Théâtre Ginza, Tokyo

Pre-World Tour Performance of Gekidan Kaitaisha's Bye-Bye: The New Primitive

A series of performances by Gekidan Kaitaisha (Saison Foundation grant recipient), the Tokyo-based theater company known for their interdisciplinary style and physically intense expression, held in prior to the European-U.S. tour of their compilation-like work, *Bye-Bye: The New Primitive*, written, created, and directed by Shinjin Shimizu, artistic director of the company, plus a photo exhibition and talk sessions.

Period: June 15 – 24, 2001

Venue: Morishita Studio (Tokyo)



A scene from the Group B version of *Dreamtime in Morishita Studios* with the performers of TheatreWorks and Yubiwa Hotel, featuring the visual artwork by Minako Nishiyama. Photo: Koichiro Saito

REVIEW OF ACTIVITIES

April 2001- March 2002

2001年

- 4月16日 2001年度助成対象者面接期間(3月26日～)終了
- 5月17日 制作実践セミナー2001 法律編「舞台作品・上演に関わる著作権」、森下スタジオにて開催(6月14日まで全5回)
- 5月25日 ニュースレター『viewpoint』第18号発行
- 6月12日 セゾンシアタープログラム H・アール・カオス『垂直の夢』公演(6月16日まで/ル テアトル銀座にて)
- 6月15日 セゾンシアタープログラム 劇団解体社『バイバイ/未開へ』公演(6月24日まで/森下スタジオにて)
- 6月21日 第21回理事会開催(2000年度事業及び収支決算報告の件)
第20回評議員会開催(2000年度事業及び収支決算報告の件)
制作実践セミナー2001 法律編「舞台芸術と契約」、森下スタジオにて開催(7月19日まで全5回)
- 6月27日 文化庁に2000年度事業及び収支決算報告書提出
- 7月8日 セゾンシアタープログラム 世田谷パブリックシアター舞台技術者養成講座開始(2002年2月17日まで)
- 8月5日 セゾンシアタープログラム 国際舞踊夏期大学開始(8月25日まで)
- 9月10日 『viewpoint』第19号発行
- 10月1日 2002年度《現代演劇・舞踊助成》募集開始
- 11月6日 セゾンシアタープログラム『Dreamtime in Morishita Studios』開始(12月2日まで/森下スタジオにて)
- 12月8日 セゾンシアタープログラム パークタワー・ネクストダンス・フェスティバル・プレイベント「ネクスト・ネクスト2」開催(森下スタジオにて)
- 12月21日 2002年度《現代演劇・舞踊助成》申請締切

2002年

- 1月25日 セゾンシアタープログラム 東京ガス都市開発(株)パークタワー・アートプログラムとの共催事業「Just Before the Performance」(稽古場見学および対談)開催(1月31日、2月1日も)
- 2月20日 同上「第6回パークタワー・ネクストダンス・フェスティバル」開催(2月28日まで/パークタワーホールにて)
- 2月27日 2002年度審査委員会開催
- 2月28日 『viewpoint』第20号発行
- 3月12日 第22回理事会開催(2002年度事業計画及び収支予算の件)
第21回評議員会開催(2002年度事業計画及び収支予算の件)
- 3月15日 2002年度助成決定通知発送
- 3月28日 文化庁に2002年度事業計画書及び収支予算書提出

2001

- April 16 Interview period (March 26-) with 2001 grant and award recipients ends
- May 17 Arts Management Seminar 2001 — *Copyrights on Performing Art Works and Staging* begins at Morishita Studio (a total of five classes till June 14)
- May 25 Publication of the Saison Foundation's newsletter *viewpoint* No. 18
- June 12 Saison Theater Program/H Art Chaos' *Suichoku no Yume (Le Songe Vertical)* presented at Le Théâtre Ginza, Tokyo (till June 16)
- June 15 Saison Theater Program/Gekidan Kaitaisha's *Bye-Bye: The New Primitive* presented at Morishita Studio (till June 24)
- June 21 The 21st Board of Directors Meeting held in Tokyo (Agenda: report on activities and settlement of accounts for fiscal year 2000)
The 20th Board of Trustees Meeting held in Tokyo (Agenda: report on activities and settlement of accounts for fiscal year 2000)
Arts Management Seminar 2001 — *Contracts and Performing Arts* begins at Morishita Studio (a total of five classes till July 19)
- June 27 Report on activities and settlement of accounts for fiscal year 2000 submitted to the Agency for Cultural Affairs
- July 8 Saison Theater Program/Setagaya Public Theatre Stage Technicians' Courses begin in Tokyo (till February 17, 2002)
- August 5 Saison Theater Program/International Summer School of Dance begins (till August 25)
- September 10 Publication of *viewpoint* No.19
- October 1 Application period for the 2002 Contemporary Theater and Dance Grants and Studio Awards begins
- November 6 Saison Theater Program/*Dreamtime in Morishita Studios* (a collaboration project between Singaporean and Japanese artists) begins at Morishita Studio (till December 2)
- December 8 Saison Theater Program/*Next Next 2*, an event featuring the works of young Japanese dance artists, takes place at Morishita Studio
- December 21 Application deadline for the 2002 Contemporary Theater and Dance Grants and Studio Awards

2002

- January 25 Saison Theater Program/*Just Before the Performance*, a series of work-in-progress showings and discussions held in prior to The Sixth Park Tower Next Dance Festival, begins at Morishita Studio (also on January 31 and February 1)
- February 20 Saison Theater Program/The Sixth Park Tower Next Dance Festival held at the Park Tower Hall in Tokyo (till February 28)
- February 27 Evaluation and Selection Committee meeting for the 2002 Grant and Studio Awards held in Tokyo
- February 28 Publication of *viewpoint* No. 20
- March 12 The 22nd Board of Directors Meeting held in Tokyo (Agenda: proposal of plans and budget for fiscal year 2002)
The 21st Board of Trustees Meeting held in Tokyo (Agenda: proposal of plans and budget for fiscal year 2002)
- March 15 Announcement of 2002 Grant and Studio Awards
- March 28 Plans and budget for fiscal year 2002 submitted to the Agency for Cultural Affairs

会計報告 Financial Report

収支計算書 2001年4月1日～2002年3月31日 STATEMENT OF REVENUES AND EXPENSES from April 1, 2001 to March 31, 2002

単位:円/in yen

I 収入の部 REVENUE		
1. 基本財産運用収入	Investment income from endowment	117,388,408
2. 運用財産運用収入	Investment income from operating funds	107,439,506
3. 寄付金収入	Contributions	137,000,000
4. 賃貸収入	Income from lease	6,211,800
6. その他の収入	Other income	1,081,564
当期収入合計	Net Total Revenue	369,121,278
前期繰越収支差額	Balance brought forward	138,278,528
収入合計	TOTAL REVENUE	507,399,806

II 支出の部 EXPENSES		
1. 事業費	Program services	224,636,283
(うち助成事業 Grant programs)		(118,240,186)
2. 管理費	Management and general	72,520,929
3. 森下スタジオ修繕基金積立	Repairs and refurbishment reserve fund for Morishita Studio	50,000,000
当期支出合計	Total expenses	347,157,212
当期収支差額	FUND BALANCES	21,964,066
次期繰越収支差額	BALANCE CARRIED FORWARD	160,242,594

貸借対照表 2002年3月31日現在 BALANCE SHEET as of March 31, 2002

単位:円/in yen

I 資産の部 ASSETS		
1. 流動資産	Current assets	
現金預金	Cash	42,058,536
未収収益等	Accrued revenue	40,429,130
有価証券等	Securities	79,357,736
流動資産合計	Total current assets	161,845,402
2. 固定資産	Fixed assets	
基本財産	Endowment fund	
土地	Land	2,254,915,150
有価証券	Securities	4,991,810,000
基本財産合計	Total endowment fund	7,246,725,150
特定目的財産	Designated fund	241,762,952
その他の固定資産	Other fixed assets	2,672,849,246
固定資産合計	Total fixed assets	10,161,337,348
資産合計	TOTAL ASSETS	10,323,182,750
II 負債の部 LIABILITIES		
負債合計	TOTAL LIABILITIES	8,802,808
III 正味財産の部 NET ASSETS		
正味財産	Net assets	10,314,379,942
(うち基本金 Endowment fund)		(7,246,725,150)
(うち当期正味財産減少額 Decline of assets)		(120,072,914)
負債および正味財産合計	TOTAL LIABILITIES AND NET ASSETS	10,323,182,750

助成の概況
Outline of Awards
1987-2001

分野 category	年度 year	申請件数 number of applications	助成件数 number of awards	助成金額(円) grants in yen
現代演劇・舞踊助成 Contemporary Theater and Dance Programs				
	1987-97	1,599	353	1,156,504,000
	1998	183	36	84,174,000
	1999	141	41	78,000,000
	2000	160	48	92,600,000
	2001	221	45	96,100,000
	累計 total	2,304	523	1,507,378,000
非公募助成 Designated Fund Programs				
	1987-97	161	114	523,749,000
	1998	8	8	25,212,000
	1999	8	8	20,433,000
	2000	10	10	25,208,000
	2001	11	11	22,140,000
	累計 total	198	151	616,742,000

2001年度〈現代演劇・舞踊助成〉プログラムの概況
Data on Contemporary Theater and Dance Grant Programs in 2001

プログラム programs	国内助成プログラム Domestic Grant Programs				国際交流助成プログラム International Grant Programs			合計 total
	創造環境整備プログラム Creative Environment Improvement Grant Programs		芸術創造活動プログラム Artistic Creativity Enhancement Grant Programs		知的交流プログラム Intellectual Exchange Programs	芸術交流プログラム Artistic Exchange Programs		
	ワークショップ、会議・ シンポジウム、研究 Workshops, Conferences and Symposia, and Commissioned Research Projects	アーツマネジメント 留学・研修 Arts Management Study Program	芸術創造活動Ⅰ Artistic Creativity Enhancement Grant Program I	芸術創造活動Ⅱ Artistic Creativity Enhancement Grant Program II	知的交流活動 Intellectual Exchange Grant Program	I: プロジェクト支援 I: Project Support Grant Program	II: 活動運営支援 II: Process Support Grant Program	
申請件数 number of applications	32*	1	87	5	8	80	8	221
助成件数 number of awards	13**	0	8†	3‡	2	17	2	45
助成金額(円) grants in yen	15,100,000	—	28,000,000	18,000,000	4,000,000	25,000,000	6,000,000	96,100,000

- * 継続1件含まず Excluding one extended grant
 ** うち継続1件 Including one extended grant
 † うち継続4件 Including four extended grants
 ‡ うち継続3件 Including three extended grants

役員・評議員名簿

2002年6月現在

(五十音順)

理事長

堤 清二

副理事長

絹村 和夫
東京テアトル会長

常務理事

堤 康二
バルコ取締役

理事

安西 邦夫
東京ガス会長

生野 重夫
セゾン情報システムズ顧問

石川 六郎
鹿島建設名誉会長

片山 正夫
事務局長兼任

川口 幹夫
日本放送協会名誉顧問

河竹 登志夫
日本演劇協会会長・早稲田大学名誉教授

木田 宏
新国立劇場運営財団顧問

小林 陽太郎
富士ゼロックス会長

佐野 文一郎
放送大学教育振興会会長

森 稔
森ビル社長

山崎 富治
山種美術財団理事長

監事

後藤 康男
損害保険ジャパン特別顧問

堤 麻子

原後 山治
弁護士

評議員

朝倉 摂
舞台美術家/劇場コンサルタント

阿部 良雄
帝京平成大学健康メディカル学部教授・仏文学者

一柳 慧
作曲家・ピアニスト

伊東 勇
バルコ社長

伊夫伎 一雄
東京三菱銀行特別顧問

犬養 康彦
共同通信社顧問

植木 浩
ボークス美術振興財団理事

内野 儀
東京大学大学院総合文化研究科助教授

小田島 雄志
東京芸術劇場館長・文京学院女子短期大学教授

川上 浩
ヤマハ顧問

小池 一子
武蔵野美術大学造形学部教授

近藤 道生
博報堂最高顧問

高橋 昌也
俳優・演出家

高橋 康也 2002年6月逝去

遠山 一行
音楽評論家

中村 雄二郎
哲学者・明治大学名誉教授

沼野 充義
東京大学大学院人文社会系研究科助教授

野村 喬
演劇評論家

松岡 和子
演劇評論家・翻訳家

三島 憲一
大阪大学大学院人間科学研究科教授

水落 潔
桜美林大学教授・演劇評論家

山崎 正和
東亜大学学長・評論家・劇作家

林野 宏
クレディセゾン社長

Board of Directors and Trustees

as of June 2002
in alphabetical order

CHAIRMAN

Seiji Tsutsumi

VICE CHAIRMAN

Kazuo Kinumura
Chairman, Tokyo Theatres Co., Inc.

MANAGING DIRECTOR

Koji Tsutsumi
Director, Parco Co., Ltd.

DIRECTORS

Kunio Anzai
Chairman, Tokyo Gas Co., Ltd.

Shigeo Ikuno
Advisor, Saison Information Systems Co., Ltd.

Rokuro Ishikawa
Chairman, Kajima Co.

Masao Katayama
Secretary-General, The Saison Foundation

Mikio Kawaguchi
Advisor, Japan Broadcasting Corporation

Toshio Kawatake
Chairman, Japan Theatre Arts Association; Professor Emeritus, Waseda University

Hiroshi Kida
Advisor, New National Theatre, Tokyo

Yotaro Kobayashi
Chairman of the Board, Fuji Xerox Co., Ltd.

Minoru Mori
President and Chief Executive Officer, Mori Building Co., Ltd.

Bun'ichiro Sano
President, The Society for the Promotion of University of the Air

Tomiji Yamazaki
Chairman, Yamatane Art Foundation

AUDITORS

Yasuo Goto
Senior Advisor, Sampo Japan Insurance Inc.

Sanji Harago
Attorney at Law

Asako Tsutsumi

TRUSTEES

Yoshio Abe
Professor, Faculty of Medical Science for Health, Teikyo Heisei University

Setsu Asakura
Theater Designer and Consultant

Kazuo Ibuki
Counselor, Bank of Tokyo-Mitsubishi, Ltd.

Toshi Ichianagi
Composer and Pianist

Yasuhiko Inukai
Adviser, Kyodo News

Isamu Ito
President, Parco Co., Ltd.

Hiroshi Kawakami
Adviser, Yamaha Co., Ltd.

Kazuko Koike
Professor, Musashino Art University

Michitaka Kondo
Executive Advisor, Hakuodo Inc.

Kazuko Matsuoka
Theater Critic and Translator

Ken'ichi Mishima
Professor, Graduate School of Human Sciences, University of Osaka

Kiyoshi Mizoochi
Professor, Obirin University; Theater Critic

Yujiro Nakamura
Philosopher; Professor Emeritus of Meiji University

Takashi Nomura
Theater Critic

Mitsuyoshi Numano
Associate Professor, Graduate School of Humanities and Sociology, the University of Tokyo

Yushi Odashima
Director-General, Tokyo Metropolitan Art Space

Hiroshi Rinno
President and CEO, Credit Saison Co., Ltd.

Masaya Takahashi
Actor and Director

Yasunari Takahashi d. June 2002

Kazuyuki Toyama
Music Critic

Tadashi Uchino
Associate Professor, Graduate School of Arts and Sciences, the University of Tokyo

Hiroshi Ueki
Director, Pola Art Foundation

Masakazu Yamazaki
President, University of East Asia; Critic; Playwright

セゾン文化財団 2003年度《現代演劇・舞踊助成》申請について

2003年度助成の対象となるのは、2003年4月から2004年3月までの1年間に行われる活動です。詳細につきましてはウェブサイトをご覧になるか下記事務局までご連絡ください。

お問い合わせ:

財団法人セゾン文化財団 事務局

〒104-0061

東京都中央区銀座1-16-1

東貨ビル8階

TEL: 03(3535)5566

FAX: 03(3535)5565

E-MAIL: foundation@saizon.or.jp

URL: <http://www.saizon.or.jp/>

Application Information on 2003 Contemporary Theater and Dance Grant and Studio Awards

The Saison Foundation's Contemporary Theater and Dance Grant and Studio Awards for 2003 will be awarded to projects scheduled to take place at any point during the year from April 1, 2003 to March 31, 2004. Please contact the Saison Foundation or visit our website for further details.

THE SAISON FOUNDATION

Toka Bldg. 8th Floor, 16-1, Ginza 1-Chome, Chuo-ku, Tokyo 104-0061, Japan

TEL: +81 3 (3535) 5566

FAX: +81 3 (3535) 5565

E-MAIL: foundation@saizon.or.jp

URL: <http://www.saizon.or.jp/english/>

Cover Photo:
From the showing of the Group B version of
Dreamtime in Morishita Studios with the performers
of TheatreWorks and Yubiwa Hotel, featuring the
visual artwork by Minako Nishiyama.
Photo: Koichiro Saito



この報告書は再生紙を使用しています。

財団法人セゾン文化財団

設立年月日: 1987年7月13日

主務官庁: 文化庁

基本財産: 7,246,725,150円 (2002年3月31日現在)

事務局

事務局長:

片山正夫

事業部:

久野敦子 (プログラム・ディレクター)

福富達夫 (プログラム・オフィサー)

岡本純子 (プログラム・アシスタント)

上田 亘 (森下スタジオ マネジャー)

前川裕美 (森下スタジオ アシスタント・マネジャー)

管理部:

坂上孝男

2001年度 事業報告書

2002年10月発行

財団法人セゾン文化財団

〒104-0061

東京都中央区銀座1-16-1 東貨ビル8階

TEL: 03(3535) 5566 FAX: 03(3535) 5565

foundation@saizon.or.jp

<http://www.saizon.or.jp/>

THE SAISON FOUNDATION

Date of Establishment: July 13, 1987

Authorized by the Agency for Cultural Affairs

Funds: ¥7,246,725,150 (as of March 31, 2002)

STAFF

Director and Secretary-General:

Masao Katayama

Program:

Atsuko Hisano (Program Director)

Tatsuo Fukutomi (Program Officer)

Junko Okamoto (Program Assistant)

Wataru Ueda (Manager, Morishita Studio)

Hiroimi Maekawa (Assistant Manager, Morishita Studio)

Administration:

Takao Sakagami (Financial Manager)

ANNUAL REPORT 2001

Published: October 2002

THE SAISON FOUNDATION

Toka Bldg. 8th Floor, 16-1, Ginza 1-Chome, Chuo-ku, Tokyo 104-0061, Japan

TEL: +81 3 (3535) 5566 FAX: +81 3 (3535) 5565

foundation@saizon.or.jp

<http://www.saizon.or.jp/english/>

Annual Report 2001
April 2001 to March 2002